

絶セシテ今日ニ及ヒタルモノナリ然レトモ提供會社ノ株券ヲ擔保シテ徵シ置ク
トキハ時トシテ擔保ノ效用薄キニ至ルコトアルヘキカ故ニ此ノ取扱ヲ改ムルコトトシ
既ニ其旨ヲ達シ置キタリ
右及答辯候也

明治四十二年二月

大藏大臣侯爵桂太郎

衆議院議員村松恆一郎君提出戊申詔書ノ御趣意普及ニ關スル質問ニ對シ別
紙答辯書差進候也

明治四十二年二月六日

内閣總理大臣侯爵桂太郎

衆議院議長長谷場純孝殿

(別紙)

村松恆一郎君提出戊申詔書ノ御趣意普及ニ關スル質問答辯書

一戊申詔書ノ御趣意普及ノ方法トシテハ單ニ一片ノ訓示ヲ以テ足レリトセス政
府自ラ御趣意ノ貫徹ニ努メ實地ニ就テ之カ指導ニ盡ス所アリ朝野一般國民ヲ
通シテ詔書ノ御趣意ヲ服膺シ
聖旨ノ萬一ニ奉答センコトヲ期セサルヘカヲサルハ勿論ナリ

二詔書ノ御趣意ヲ拜察スルニ一字内ノ大局ニ伴フテ國運ノ發展ヲ期スルニ在リ
故ヲ以テ殖産興業ノ事業善矯風ノ業併セテ其振興ヲ期シ以テ一國ノ光輝實
力ヲ發揚センコトハ各地方行政廳何レモ措畫ヲ怠ラサル所ニシテ政府モ亦常ニ
此點ニ留意シ其指導ト誘掖トニ力メ尙地方改良ニ關スル諸般ノ經營ヲ促シ其
實效ヲ收メンコトヲ期スルモ亦此意ニ外ナラス若シ夫レ多數地方ノ中或ハ一方
ニ偏シテ中庸ヲ失スルノ措置アルモノアラカ之カ匡正ヲ計リ遺漏ナカラントラ
努ムニ吝ナラス

右及答辯候也

明治四十二年二月六日

内閣總理大臣侯爵桂太郎
内務大臣法學博士男爵平田東助

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
非常特別稅法中改正法律案

提出者 島田 三郎君

大石 正己君

非常特別稅法中改正法律案

提出者 島田 三郎君

外五名(同上)

鹽專賣法廢止法律案

提出者 島田 三郎君

外五名(同上)

未成年者飲酒禁止法案

提出者 根本 正君

違警罪即決例ニ關スル法律案

提出者 松田 源治君

民事上告豫納金廢止法律案

提出者 岩田 信君

内地及臺灣司法共通ニ關スル法律案

提出者 齋藤 二郎君

衆議院議員選舉法中改正法律案

提出者 小泉 又次郎君

鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 長 晴 登君

砂糖消費稅法中改正法律案

提出者 三浦 覺一君

内地精糖輸出獎勵金下附ニ關スル法律案

提出者 中川 虎之助君

關稅定率法輸入稅表中改正法律案

提出者 中川 虎之助君

砂糖臨時消費稅法案

提出者 中川 虎之助君

癘疾軍人及文官優遇ニ關スル建議案

提出者 三浦 覺一君

一細野次郎君ヨリ砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書ヲ提出セラレタリ

(左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

明治四十二年二月六日

提出者 細野 次郎

贊成者 島田 三郎

外三十名

砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書

砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書

砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書

砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書

砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書

砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書

砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書

砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書

砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書

砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書

砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書

砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書

砂糖消費稅擔保品ニ關スル再質問主意書

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス〕
一去年二日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
造船獎勵法中改正法律案外一件

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 鳩山 和夫君 | 齋藤 二郎君 | 本出 保太郎君 |
| 板倉 中君 | 竹越 與三郎君 | 春田 祐清君 |
| 中村 舜次郎君 | 德田 讓甫君 | 橋本 久太郎君 |
| 中倉 万次郎君 | 麥田 宰三郎君 | 熊本 壽人君 |
| 川原 茂輔君 | 奧 繁三郎君 | 渡邊 兵四郎君 |
| 武田 貞之助君 | 森 正君 | 武富 時敏君 |
| 大内 暢三君 | 柴 四朗君 | 小 河 源一君 |
| 石田 平吉君 | 中村 彌六君 | 肥 田 景之君 |
| 小川 平吉君 | 西村 丹治郎君 | 小 寺 謙吉君 |

委員長 鳩山 和夫君 理事 〔川原 茂輔君 小寺 謙吉君〕

○議長〔長谷場純孝君〕 御諮ヲ致シマスコトガアリマス、決算委員澤田佐助君病氣ノタメ辭任ヲ申出デラレマシタ、許可シテ差支アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長〔長谷場純孝君〕 御異議ハアリマセヌト認メマスカラ 許可スルコトニ決シマス、而シテ同君ハ第九部選出デアリマスカラ此補闕トシテ第九部ノ諸君ハ選舉ヲ行ハレテ議長ノ手許ヘ御届アラシコトヲ希望致シマス

〔此時發言ヲ求ムル者アリ〕

○議長〔長谷場純孝君〕 御注意ヲ申上ゲマス、規則ニ依ッテ議長ガ開會ノ宣言ヲセヌ以上ハ何人ニモ發言ハ許シマセヌ、議員首藤陸三君、神戸松之助君各五日ヨリ十八日ヨリ一週間ノ請假ノ願ガゴザイマス、許可シテ差支ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長〔長谷場純孝君〕 御異議ガナイト認メマスカラ許可スルコトニ決シマス、是ヨリ會議ヲ開キマス

〔此時發言ヲ求ムル者アリ〕

○議長〔長谷場純孝君〕 此處デチヨット御諮ヲ致シマス、豫算委員ノ第二分科主査齋藤圭次君、及第三分科ノ主査野田卯太郎君ヨリ豫算ノ分科會ヲ本議會議事中ニ開キタイカラ許可ヲ得タイト云フ請求デゴザイマス、許可シテ差支ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長〔長谷場純孝君〕 御異議ガナイト認メマスカラ、許可スルコトニ決シマス

○野田卯太郎君 第三分科ノ諸君ハ直チニ分科會ヲ開キマスカラ……

○議長〔長谷場純孝君〕 モウ一ツ御諮ヲ致シマス、請願委員會ノ家祿給與ニ關スル件ニ付テ委員會議事ニ開キタイト云フ請求ガゴザイマス、許可シテ差支ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長〔長谷場純孝君〕 御異議ハナイト認メマスカラ、許可致シマス、細野次郎君ハ何デゴザイマス

○細野次郎君 私ハ今日……
○議長〔長谷場純孝君〕 アナタノ質問書ニ付テノ……
○細野次郎君 私ノ質問デハゴザイマセヌ、大藏大臣ノ答辯書ニ付テチヨット質問ヲ致シタイ

○議長〔長谷場純孝君〕 今ノ答辯書ニ付テ説明ヲ請ハレノデスカ

○細野次郎君 左様デゴザイマス

○議長〔長谷場純孝君〕 發言ヲ許可シマス

〔細野次郎君登壇〕

○細野次郎君 先日私が質問ノ趣旨ヲ續述シマシタ際ハ、大藏大臣ハ御出席デハアリマセナンダケレドモ、私ノ演説ハ詳細速記録ニ遺ッテ居リマシタカラ、セメテハ御一讀下サレタ位ノ光榮ハ本員ハ得タコト、存ジマス、然ルニ歴々ト要ヲ擧ゲテ數ハ置キマシタル事項ニ付テ、御答辯ノナイトコロガ少ナクナイデス、一體本年ノ議會デハ如何ニ政府ニ好意ヲ表セントスルモ、政府ガ議會ニ對スル答辯ノ常ニ誠實ヲ缺イテ居ルト云フコトハ、滿場ノ諸君ト共ニ常ニ遺憾ニ感ジテ居ルトコロデアル、例ヘバ公債所得稅免除ノ如キ、曩ニハ此壇上ニ於テ若槻政府委員ハ八十八萬圓ト云ヒ、特別委員會ニ於テハ七十萬圓ト云ヒ、金高ガ十六萬圓違フノハ何故ニ違フカト云ヘバ、細カニ勘定ラシタカラ違フコト云フ、凡ソ世ノ中ニ細カク勘定シテ數ノ違フコト云フ話ハ神武以來聽イタコトハナイ、而シテ此大ナル問題、外交ノ問題ニ付テモ外務大臣ハ移民ヲ八方ニ散ラスノハ國ノ不利益デアル、一方ニ集中スルコト云フ邊信大臣ハ南米航路ハ移民ノタメニ開クト云フ、移民ノタメニコトナイト云フコトハ答メラレテカラ始メテ言ウタコトデ、速記録ヲ見レバ移民政策ト云フコトハ歴々政府ニ於テ十分ノ調ガシテアル、斯ウ云フコトデアル、而シテ又本員ノ答辯ニ對シテモ同様ノコトデアル、本員ノ答辯ノ趣意ハ提供會社ノ株券若クハ社債ヲ其會社ノ擔保トスルコトハ、擔保ノ役ニ立ツトキハ必然屹度デス、タメニナルモノデアル、斯ウ云フコトデアル、所ガ政府ノ答辯ニハ時トシテハ效力ノ薄キニ至ルベキコトアルヲ以テトアル、是ガ私ニハ分ラヌデアル、時トシテハ效力ノ薄イバカリデハナイ、必然タメニナルデアル、是ニ對スル政府ノ見解ヲ一ツ聞キタイ、ソレカラ今ノ答辯書ノ最初ニ最近ノ調査ニ依レバトアル、此最近ト云フノハ何時デアルカ、舊株式ノ額面百圓即チ二株ニ付テ七十七圓ト云フノハ何時ノ調ベデアル、是ハ砂糖戻稅ノ特別委員會ニ於テ加瀬君ノ問ニ答ヘラレタノ同額金額デアル、而シテ確カニ今日ヨリ聽テ十日モ前ノ調ベ思フ、私が唯今新聞ヲ見レバ昨日ノ價ト云フモノハ既ニ二株ニ付テ五十六圓ニ下落シテ居ル、十九圓ノ相違ガ付テ居ル、一旦若シ此事ガ八日附デ政府ガ答書ヲ出サル、ノニ、先日特別委員會デ調ベマシタノ其儘ニ出シテ、其以來ノ變動ニ毫厘ノ一顧モ拂ハナカッタト云フノハ決シテ私ハ親切ノ答辯デハナイト思ヒマス、而シテ又答辯中ニ此提拱會社ノ株式、竝ニ社債ヲ加ヘタノハ三十四年ニ擔保物ノ品物ヲ極メルトキニ、即チ會社ノモノヲ指定品ノ中ニ加ヘタト云フ、其指定品ニ加ヘタノハ必然タメニナルベキモノゾ、擔保ガ役ニ立ツトキハ屹度價ノナクナルベキモノヲ何故ニ指定品ニ加ヘラレマシタカ、此三十四年ノ當時ハ現大藏大臣ガ總理大臣ニ御在職中ノトキデアッタ、モウ任期ガ代ッダカラ答辯ノ責任ガナイト云ヘバ、ソレマデノコトデアル、併ナガラ縱シヤ此責任ガナイトシテモ、現在大藏大臣就職後ニ何故ニ斯ノ如キ不當不法——花井君ノ口吻ヲ真似レバ不當、不正、不條理ノコトヲ今日マデ何故ニ其儘ニシテ置イタカ、ノミナラス現ニ此株式ノ價格ナルモノハ非常ニ暴落シテ數百萬圓ノ損害ヲ國家ニ來サントシツ、アルト云フコトハ、如何ニ金錢利害ニ毫厘ノ注意ヲ拂ハナイ大藏大臣デモ御承知ガナケ

レバナラヌコト、思フ、二百萬圓ノ損ガアル、而シテ此間ナセ御改正ガナカッタ、而シテ又
私ガ曩ニ質問シタルハ此株券暴落ハ今日擔保價格ノ半分——半以下ニモ下落シテ
居ルノニ、當該官廳ハ如何ナル手段ヲ採リテ往々タカ、若シ相當ノ手段ヲ採ラヌデア
ナラバ、此官吏ニ對シテ如何ナル處分ヲ施サレタカ、而シテ穩當ナイカラ改メルト云フ
コトハ、特ニ本員モ豫算委員會ニ於テ政府委員ニ伺フテ居ル、現在ノヲ取替ヘルノハ何
時改メ、イツマデニ期限ヲ付ケテ居ルカ、但シハ砂糖會社ノ都合ニ依リテ三年デモ五
年デモ彼等ノ持ッテ來ルヲ待ッテ居ル積リカ、特ニ其意味ハ私ノ演說シタ速記録ニ殘ッ
テ居ルノデスカラ、是ダケノコトヲ改メテ承ハリタク存シマス

〔政府委員若槻禮次郎君登壇〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 唯今ノ御尋ニ御答シマス、其第一ハ政府ガ今日ノ株
券ノ價格ヲ見テ居ルコトハ、昨今ノ相場以上ニ見テ居ルト云フコトデアリマス、如何
ニモ御尋ニナリマス如ク、一昨日或ハ昨日ノ相場ハ此處ニ御目ニ掛ケタヨリモ低イノデ
アリマス、併シ政府ガ御答辯致シマス、ソレノ取調ベマシテ、大藏省カラ調ベタ
モノハ内閣ヘ出シ、内閣デハ閣議ヲ開イテ御答スルヤウニナリマス、丁度昨日ノ價
格ト合ヒマセヌハ、サウ云フ所カラ起ツタデアリマス、ソレカラ此株券ヲ取ッテ居ルコト
付テ三十四年頃ニ斯ウ云フモノヲ取ルコトヲシタノハ、ドウ云フ譯デアルト云フコトハ、是ハ
政府デ致シマシタルハ製糖會社カラ出スニ付テ、其所ノ株ヲ取ッテ宜イト云フヤウニ指定シ
タルデアリマセヌデ、一般ノ砂糖ノ取引ノ場合ニ擔保トシテ總テ其擔保ノ株券ノ中ニ
ハ製糖會社ノ株モ取テ宜シ、斯ウ指定シテ居タノデ、ソコデ其當時ハ御承知ノ通り五
十圓ノモノガ百圓以上モシテ居タモノデスカラ、當時指定シタモノハ大抵サウ云フヤウナ
拂込ヨリモ値ノ宜イヤウナモノヲ指定シテ、是ナラバ宜イト云フテ指定シタルデアリマ
ス、併シ其會社ノモノヲ會社ノ擔保ニ取ルト云フコトノ宜クナイ——仰セニナルコトハ丁
度御質問ナサル御方ト政府ノ見マス所ハ今日ハ同様デアルノデ、併ナガラ其時ニ指定シ
タトコロガ稅務署ノ方デハ之ヲ請取ツテ、ツヒツレガ今日マデニナッテ居リマシテ、今日ノ如ク
會社ノ株ノ下ツタト云フコトハ、ヒツ僅カノ間デアリマス、ソレマデハ相當ノ價ガアツタモノデ
アルカラ、疑ハズシテ是マデ參ツタノデスカレドモ、此擔保ノ效力ヲ持ツトキニハ御質問ノ如
ク其會社ノモノハ宜シクアリマセヌカラ、政府ノ方デハ今後提供者ノ株ヲ擔保ニ取ッテハ
ナラナイ、斯ウ云フコトニ既ニ命ジタルデアリマス、ソレカラ今アル物ヲソナラドウスル
カト云フデアリマスガ、今アリマスモノハ既ニ擔保ニ取ッタルデアリマシテ、サウシテ其實
價ノ減ジテ居ルトコロノモノハ他ノ物ヲ填補サセルヤウニ政府ハ催促シテ居ルノデアリ
マス、是ハ出テシマッテ擔保ニナッテ居リマスカラ、之ヲ離スト云フコトハ政府ノ、徵稅權
ノ擔保ヲ失ヒマスカラ、既ニ取ツタモノハ離スコトハ出來マセヌ、此上ニ増擔保ヲ今催促
シテ居ル次第デアリマス、今後斯ウ云フヤウナ提供會社ノ株ヲ取ラヌト云フコトニ政府
ハ極メテ居リマスカラ……

○細野次郎君 チョット私ノ御答辯ニ對シテ御答ガナイノデ——即チ今下落シツ、ア
ル、施行規則ノ十六條ニ依テ増擔保ヲ取ルト云フ必要アガナラバ、ソレニ對シテドレ
ダケノ手續ヲシテ今増擔保ヲ取ツタカ取ラヌカ、唯一片ノ増擔保ヲ請求シタ、申達シタ
ト云フダケデ能事終レリト考ヘテ居ラル、ヤ否ヤ、改メルトナツタ以上ハ之ヲ改メルト云フ

コトヲ達シタトスレバ、ソレハイツマデニ改メルト云フコトヲ達セラレタモノカ、ソレカラ前ノ
御答辯ニ時價八掛デアル——所ガ公債ノ其時分ニハ時價八掛デアル、變動ノ多イ株
式ヲ以テ公債同様ノ取引ヲシタト云フノハ如何ナル理由デアルカト云フノガ、要點デアリマ
ス

〔政府委員若槻禮次郎君登壇〕

○政府委員(若槻禮次郎君) 政府デハ増擔保ノ催促ヲ致シテ居リマス、併シマダ出
テハ居リマセヌ、又御承知ノ通り會社ノ今日ノ狀況デハ之ヲ迫リマシタトコロガ、殆ド出
セナイデアリマスケレドモ、政府デハ迫ルベキ手續ハ十分盡シテ居リマス、ソレカラ株券ヲ
八掛デ取ツタト云フコトハ、是ハ一方ニ於テハ砂糖ノ稅額ト云フモノハ隨分稅制制定以
來増サレテ居リマシテ、擔保ニマデモ非常ナ窮屈ナコトヲ申シマシタルデアハ砂糖ノ取引ガ
止マッテシマフト云フヤウナ狀況デアリマスカラ、ソレ故ニ一方ニハ擔保モ大切デアリマ
スケレドモ、他ノ一方ニハ又稅ノタメニ砂糖ノ取引ガ出來ヌヤウニ課マシテハ困リマス、凡
ソハ掛位取ツテ置ケバ相當デアル、斯ウ認メタルデアリマス

○細野次郎君 サウスルト末尾ニ「時」シテ擔保ノ效用薄キニ至ルコトアルヘキ」ト書イ
デアリマスガ、時シテ效用ガ薄キニ至ルノデナクシテ、擔保ノ役ニ立タヌトキハ全然タダニ
ナル性質ノモノニナルト云フコトハ、政府モ御同意デスカ

○政府委員(若槻禮次郎君) サウ云フ場合ニハ……

○細野次郎君 時シテデハナク、必然ダト云フコトハ御同意デアリマス

○議長(長谷場純孝君) 質問演說ノ通告ガアリマスカラ、慣例ニ依ッテ議事日程ニ
入ル前ニ質問ノ説明ヲ許シマス——横山金太郎君

〔横山金太郎君登壇〕

○横山金太郎君 諸君、本員ハ漫ニ行政權ノ威力ニ藉リテ農民ヲ抑壓セントスルノ
政策ニハ絕對ニ反對デアルノデゴザイマス、而シテ現ニ廣島縣知事ガ縣令第七十號ヲ
以テ共同苗代設置規則ヲ發布シテ之ヲ強制シツ、アル現狀ハ、確ニ行政權ノ威力ヲ
以テ國家生産ノ發達ヲ阻害スル不法ノ行為ナリト信ズルモノデゴザイマス、故ニ諸君ト
共ニ政府ノ所見ヲ質スベキ必要ニ迫ツタガタメニ、即チ政府ハ果シテ斯ノ如キ地方行政
官ノ行為ヲ以テ適當ナル措置ト認メラル、ヤ否ヤト云フコトニ付テ、本員ハ森田俊佐久
君及金尾稜嚴君ト共ニ花井卓藏君外四十名賛成ヲ以テ質問書ヲ提出致シテ置イ
タルデゴザイマス、即チ今ヤ幸ニ其質問ノ趣意ヲ述ベテ政府當局ニ伺フベキ機會ニ到
著致シタコトハ私ハ愉快ニ考ヘテ居リマス、或ハ一地方ノ問題ヲ拉シ來ツテ云爲スルノハ順
序其當ヲ得ナイト云フ、人ガアルカモ知レマセヌケレドモ、諸君是ハ蓋シ思ハザルノ甚シキ
ノデアルト私ハ考ヘルノデアル、諸君二葉ニシテ刈ラザレバ斧ヲ入レナケレバナラヌ悔ガモア
ルノデゴザイマス聞クガ如クンバ共同苗代ト云ヘル問題ハ曾テ農商務大臣ヨリ全國一般
ニ對シテ勸業獎勵ノタメニ發セラレタル一片ノ訓令ニ胚胎致シテ居ルト云フコトデア
ル、今日ニアッテハ單ニ廣島縣即チ一地方ノ問題ニ過ぎザルガ如キ感ヲ供ヘテ居リマスケ
レドモ、總テハ全國ニ及ベキトコロノ素質ヲ具備スルコトニ著目セラレテ、深キ注意ヲ
拂ハレンコトヲ望ムノデアル、サレバ共同苗代ト云ヘルモノハ如何ナルモノデアルカト云フ
ナラバ、諸君共同苗代設置規則ニハ斯様ニ制定セラレタルデアル「水稻ノ苗代ハ本

則ニ依リ共同苗代トナスヘシト先ダ書イテアル而シテ更ニ進シテ其ニ一條ニハ如何ヤウニ書イテアルカト云ヘハ「本則ニ於テ共同苗代ト稱スルハ採種選種浸種播種整地管理病蟲鳥害ノ驅除豫防其他水稻ノ苗代ニ關スル一切ノ作業ヲ共同經營スルヲ謂フ」ト定義ガ下サレテアルノデゴザイマス、之ヲ平タク申シテ見マシタナラバ、諸リ此水稻ノ苗代作ルニ當テハ農民ハ必ズ組合ト云フモノヲ組織シテ或一區域ニ於テ苗代床ト云フモノヲ選シテ之ニ植付ヲ致スノアル、サウシテ其植付ヲ致スニ付テハ必ズ苗床ニ播クベキトコロノ苗ヲ選ブコトモ、其種ヲ水ニ浸スコトモ、其種ヲ播クコトモ、亦苗代床ヲ均ラスコトモ、病蟲ヲ除クコトモ、鳥害ヲ防グコトモ、其管理モ總テ一緒ニシナケレバナラヌト云フコトニ書イテアルノアル、サウシテ之ニ背クモノハ即チ罪人ニセラル、ノアルト云フコトモ、亦其規則ノ中ニ制定セラレテ居ルノデゴザイマス、抑、共同苗代ガ背理不當ナモノデアルト云フコトハ、明治四十一年十二月十二日廣島縣會同縣ノ縣ノ公益ニ關シテ內務大臣ニ提出シタル意見書ヲ一讀セラレタ人ハ、誠ニ火ヲ賭ルヨリモ明カデアノデゴザイマス、本員ハ即チ此所ニ其意見書ヲ引用致スノアル、然レドモ悉ク之ヲ讀ムト云フコトハ、徒ラニ時間ヲ曠シスルノ虞ガアルト、諸君ノ倦怠ヲ招ク嫌ヒガゴザイマスルガ故ニ、參考トシテ速記録ニ其記載ヲ請フコトニシマシテ、此所ニ私ハ讀ミ上ケルコトヲ略シマス、況ヤデス、其共同苗代ト云ヘルモノハ本員、見ル所ヲ以テ致シマスレバ、今日ハ尙試驗中ニアルノデゴザイマス、我日本ハ五千万ノ人口ト三府一道四十四縣及臺灣ノ領土ト併有スルコロノ東洋ノ一大帝國デゴザイマス、而シテ就中共同苗代ノ行ハレタル地點如何ト願ミタナラバ、實ニ晨星ノ寥々タルモノデアルト云フコトヲ私ハ深ク感ズルノアル、即チ兵庫縣ヲ筆頭ト致シテ滋賀縣ノ一部及、今ヤ設置規則強制ノタメニ苦ミツ、アルトコロノ廣島縣ヲ除イテハ、他ニ存在ハ致サナイノアル、然ルニ廣島縣ノ如キハ上下舉テ其狀ヲ唱ヘ反對ノ聲ハ今ヤ天下ニ充滿ヲ致シテ居ルノアル、又其共同苗代ノ設置ヲ強制スルマデハ、七箇年ノ久シキ試驗ヲ重テ、僅ニ一昨年ニ至リ規則ヲ實施セルトコロノ兵庫縣ニ於テスラ、今日ノ不便ヲ訴フル所ノ農民ガ最も其多キヲ占メテ居ルト云フコトハ事實デアアル、思フニ政府者ト雖モ此勸農上農民ニ對シテ之ヲ施シテ利益ガアルト認メラレタ以上ハ、決シテ一地方ノ行政的動作ニ一任スベカラザルモノデアラウト思フ、試ミニ等シク農業ノ發達ヲ助ケベキ一方法トシテ其實行ヲ農民ニ向テ強ヒツ、アルトコロノ、彼ノ蟲害豫防法ハ諸君如何デアラカ、之ヲ一般ニ即チ履行ヲ強テ效ガアルト認メラレタガタメト私ハ思フノアル、故ニ若シ政府ノ確信ニシテ同法ニ於ケルガ如シトセバ、必ズヤ法律ヲ作ッテサウシテ一般農民ニ律セラルベキ苦ノモノデアルト思フ、然ルニ直ニ此國民ヲ羈束スルニ足ラザルトコロノ一片ノ訓令ヲ地方行政官ニ發セラレテ、サウシテ其苗代ノ實施ヲ獎勵セザルベカラザル所以ノモノハ、共同苗代ト蟲害豫防ノ點ニ於テ即チ此間ニ於テ施政上ニ甚ダ私ハ懸隔ガアルト思フ、詰局共同苗代ノ實施ノ如キハ唯今述ベマシタ點カラ申シタナラバ、益、其試驗中ニ屬スルモノデアルト云フコトヲ看取スルニ難カラザルトコロノ、好資料ト考フルノアル、殊ニ甚シキハ廣島縣一部ノ農民ガ此共同苗代ノ不便不利ナル理由十一箇條ヲ掲ゲテ、廣島縣ノ當局者ニ向テ質ス所ガアッタニ對シテ、廣島縣ノ當局者ハ一トシテ之ニ對シテ適切ナル解答ヲセラレナカッタノデゴザイマス、獨リ解答セラレザルノミナラズ、縣當局者ハ斯様ナルコト

ヲ農民ニ對シテ語ッタアル、斯ノ如キ實施ノコトハ役人ノ關スル所デナイノアル、恐ラクハ農政統一ノ局ニ當ッテ居ル農商務省ア特ニ其道ニ通曉セラレタ技師ハアルガ、其技師ニ就テ聞イテ見タトコロア、明解ナルトコロノ答辯ハ出來ナイデアラウト思フ、實際ノ利害如何ヲ吾々ニ問フヨリモ、去ッテ夙ニ其共同苗代ヲ實施セルトコロノ兵庫縣ニ到ッテ實地ヲ觀察セヨト云フコトヲ告ゲタノアル、而シテウレヲ告グルト同時ニ廣島縣當局者ヨリハ其農民等ニ對シテ一通ノ添書ヲ交付サレタノアル、農民ハ即チ雀躍ヲ致シテ兵庫縣ニ到リ、縣當局者ニ其添書ヲ呈シテ以テ當局者ニ大ニ問フコトガアリ、實地觀察ノ便ヲ與フベク要求ヲ致シタノデゴザイマス、然ルニ兵庫縣ノ當局ハ之ニ對シテ如何ナル態度ヲ取ッタノアルカ、諸君同縣ノ當局者ハ斯様ナルコトヲ其農民ニ向ッテ告ゲタノデゴザイマス、即チ七年ノ間苦心經營ヲ重テ共同苗代ノ實施ニ努メタルコトト竝ニ其實施ヲ爲スコトガ甚ダ困難デアアル、且ツ現在困難シツ、アルト云フコトヲ續キ述ベラレタノデゴザイマス、農民ハ即チ之ヲ聞イテ殆ド驚愕ノ念ニ打タレテシマッテ、一時ハ物モ言ヒ得ナカッタト云フコトデアアル、サウシテ其兵庫縣當局ノ説明スル所ニ依ッテ、實地ヲ觀察致シマシタトコロガ、觀察ノ結果ハ成績ノ稍、舉リタリト認ムベキ箇所ハ僅ニ二箇所ニ過ギナカッタノアル、而モ同縣ニ於テハ豫メ此農民ノ疾苦ヲ慮ッテ縣ヨリハ地方稅ノ補助、又郡ヨリハ獎勵金ト云ヘルモノヲ支出シテ傍ラニ熱心ナル管理者ト云フモノヲ置イテ、終始其管理ニ從事セシメラレタノアル、故ニ成績ノ舉リタル三箇所ノ如キデモ熱心ナル管理者ガアッテ始メテ得ラレタル效果デアッテ若シ其二三箇所ヲ除キタルトコロノ其他ノ地點、即チ兵庫縣ヲ以テ農事試驗場ノ置カレテゴザイマストコロノ「要點ヲ述ベテ吳レト」呼フ者アリ、明石ノ如キ、縣ノ足許カラ共同苗代ノ不便不利ヲ唱ヘテ怨嗟ノ聲ガ充テ満チテ居ルノアル、即チ表面平穩ナルガ如キハ、唯森嚴ナルトコロノ法律ヲ恐レテサウシテ以テ始メテ服從ヲ致シテ居ルト云フ傾向ガアルノデゴザイマス、聞ク所ニ依レハ兵庫縣ニ在テハ昨年中現ニ一村内ニ六十二名ト云ヘル違反者ヲ出シタト云フコトデアアル、其結果ハ如何ニナッタカト云フト、裁判所ハ農民ノ衷請ヲ諒トセラレ、共同苗代ノ弊害ノアルコトヲ認メテ總テ被告人ニ對シテ無罪ヲ言渡シタノデゴザイマス、然ルニ廣島縣當局者ハ頑トシテ本員等ノ勸告ヲ肯カズ、農民ノ實地觀察ノ結果ニ耳ヲ假スコトヲセシテ愈々進シテ、其訓令ノ履行ニ腐心ヲ致サレテ居ルノアル、謂ハハ農民ヲ敵トシテ以テ戰ヒツ、アル有様ガ有リト見エテ居ルノデゴザイマス、要スルニ一日實施ヲ緩ウセバ、一日行政機關ノ運轉ヲ阻止スル如キ行政振リデゴザイマス、今日法令ノ力ヲ借リテ之ガ強行ヲ力メナケレバナラバ、勸農行政ノ如キハ主トシテ耕作地及農產物ニ對スル災害ヲ豫防シ、又農業ノ保護發達ヲ圖ルベキトコロノ助長行政ヲ爲スニ當ッテ、斯ノ如キ試驗中ニ屬スル利害得失ノ未決ナル問題ヲ以テ、法令ノ威信ヲ借ッテ農民ニ流ムト云フコトハ、私ハ甚ダ不可ナリト思フノアル、即チ斷シテ云フ、斯ノ如キハ決シテ行政政策トシテハ其當ヲ得タモノデナイト思フノアル、之ハ決シテ本員一個ノ私見デハナイノデゴザイマス、般鑑遠カラズ、此廣島縣ニ於テ發行スルコロノ新聞紙ニ注目セラレタナラバ、其事情ハ直ニ分ルノアル、其地方當局ノ爪牙トナッテ動キツ、アルトコロノ新聞ハ別トシテ、其他ノ新聞紙上ニ現出スル記事ニ依レバ、主トシテ共同苗代實施反對ノ意志ヲ表明スベク、或ハ村民大會ヲ、或ハ郡民大會ヲ、或ハ縣民大會ト云

(六)

(二)又彼ノ糧種交附米持寄リ豫算決算ノ用定認會議跡作公入札賣却處分、肥料ヲ施シ又ハ耕種作
業其他ノ諸協議ノタメニ空亡徒費スル努力ヲ假リニ一段歩内外ノ共同苗代ニシテ組合員十名ト定
メ平均一日ノ要スルセシカ此一段歩内外ノ共同苗代ニ對スル平均一人一日ノ努力ハ全タ共同苗
代設置ノタメニ空費セラル、モノナリ是レ共同苗代カ個人苗代ニ比シテ努力ノ不經濟ナル理由ノ第
二ナリ

(三)縣當局者ハ共同苗代ヲ設置スル時ハ畦塗ノ努力ヲ減少スルコトヲ得ヘシト説ケトモ是レ寔ニ廣
島縣下ノ實情ニ近シタルニモ、ニシテ山間僻地ノ村落ニアリテハ平均一田面ノ面積ハ凡テ
二畝歩内外ナルヲ以テ假令水利ノニ伴フモノアリトスルモ假リニ面積一段歩ノ共同苗代ヲ設置ス
ルモノトスレハ五畝ノ田面ヲ要スルノ二畝塗ノ煩雜ヲ加ヘ却ツテ個人苗代ヨリモ畦塗ノ努力ヲ増
加スルノ結果ヲ生ス是レ共同苗代カ個人苗代ニ比シテ努力ノ不經濟ナル理由ノ第三ナリ

(四)更ニ共同苗代組合ヲ設ケテ一處ニ稻苗ヲ作ル時ハ農家ノ最モ繁忙ナル植付ノ季節ニ際シテ組
合員ノ或ル部分ノモノハ稻苗ヲ最モ遠隔ノ稻田マテ運搬セサルヘカサルカタメ非常ニ努力ヲ増加
シテ不經濟ノ甚タシキヲ致スコトアリ現ニ縣當局者ハ共同苗代ノ模範地ナリト稱スル兵庫縣水上郡
成松村ノ内大字大岡村ニ設置セラレ居ル共同苗代ヲ標準トシテ植付段別三十町歩ノ共同苗代ヲ我カ
廣島縣下ニ設置スト假定セヨ而シテ其共同苗代地ヨリ植付稻田ニ到ル道程ハ平均片道五町ニシテ往
復十町ナリ而シテ一段歩ニ要スル稻苗ハ人力ニテ凡ソ五町ヲ要スルモノトスレハ植付段別三十町歩
ニ對スル稻苗ハ實ニ一千五百町ヲ要スルヲ荷フテ前記復十町ノ道程ヲ歩行スル時ハ其道程總計一
萬五千町約四百十六里二十四町ノ多キニ達ス故ニ一人ノ農夫ノ稻苗運搬力ヲ一日ニ二百町約
六里弱トスレハ稻苗ヲ荷フテ其總道程ヲ行クニハ實ニ七十五人ノ夫役ヲ要ス是レ共同苗代カ個人苗
代ニ比シテ努力ノ不經濟ナル理由ノ第四ナリ

(五)共同苗代ヲ設置セント欲スレハ此カ管理ノ爲メニ相當ノ管理者ヲ置キ以テ或ハ苗代ノ位置ヲ選
定シ或ハ苗代地借入及ヒ借地料等ノ交渉ノ任ニ當ラシメ或ハ苗代ノ段別ヲ調査シ採種選種ノ事ニ從
ハシメ或ハ附屬帳ヲ調製整理セシメ或ハ種穀ノ貯藏及ヒ鹽水選ノ事ニ從ハシメ或ハ人夫ノ賦課及
ヒ共同苗代面ノ調整權權限ノ調査權權限交換及ヒ交換米ノ受渡或ハ苗代ノ施肥及ヒ害蟲ノ驅除豫防或
ハ稻苗ノ分配或ハ苗代跡作肥料代其他諸費用ノ賦課徵收又ハ人夫ノ出過不足ノ計算調査ヲナス
等假ニ共同苗代段別約一段歩内外ニ對シテ之ヲ實施スルコトセヨ如何ニ少ク見積ルトモ四人ノ管理者
ニシテ一日間ノ手間ヲ要ス而シテ此管理者ハ是レ組合員中ヨリ選任スルモノトスルモ四人ノ夫役
ヲ要スヘシ今ハ經費組合員各自ノ義務トシテ無給トセハ努力ノ不經濟ナリ又之ニ相當ノ給料ヲ支拂
フモノトスレハ經費增加トナルニ者共ニ農民ニ苦痛ヲ與フルコトハ即チ一ニシテ我國現在ノ如キ農
業ノ組織農家ノ經濟及ヒ農民ノ收入等ノ諸點ヨリ見テ甚タ不利ナルコト一日瞭然タリ是レ共同苗
代カ個人苗代ニ比シテ努力ノ不經濟ナル理由ノ第五ナリ

(六)我國農家ノ實際ニ見ルニ概テ家族ハ其老幼男女ヲ問ハス學ヲ耕種作業ニ從事シ以テ漸ク生計ヲ
支フルニ足ルヘキ收穫ニ努ムモノナリ即チ婦女子ハ庖厨裁縫織機ノ餘暇ヲ利用シ幼者ハ通學ノ餘
暇ヲ利用シテ老人又其體力相繼ナル努力ニ服シ其耕種作業ヲ補助シテ初メテ善ク生計ヲ營ムニ足ル
ヘキ收穫アルモノアリ此故ニ一ニ農業ニ衣食スル民人ニシテ若シ此補助微力カセハ決シテ其生計ヲ
全ク利用スルコト得ルコト能ハサルナリ若シ之ハ苗代設置ノ作業ニ付テモ固ヨリ個人苗代アリテ此補
助力ヲ利用スルコト能ハサルニ至ル蓋シ共同苗代トナスニ於テハ農家ハ全ク其作業上ニ此補
助力ヲ利用スルノ餘地ナキト共ニ農民ノ常態タル晨ニハ星ヲ戴キテ出テ夕ニハ月ヲ踏シテ歸ルカ如
クナルコト能ハサルハナリ是ヲ以テ從來個人苗代ニ於テハ數日間ヲ以テ苗代耕種作業ノ終リシモノ
モ共同苗代ニ於テハ十數日ノ出役ヲ爲サルヘカサルニ至ル噫何等ノ損耗ノヤ是レ共同苗代カ個
人苗代ニ比シテ努力ノ不經濟ナル理由ノ第六ナリ

其四 共同苗代ハ經費ヲ増加ス
縣當局者ハ共同苗代ノ設置ヲ以テ經費ヲ減少ヲ見ルヲ得ヘシト云ヘトモ是又誠ニ思ハサルノ甚タシ
キモノナリ共同苗代ニヨリテ實好ノ苗ヲ得ルニ少額ノ經費ヲ以テセシトスルカ如キハ本ニ鑒ダテ魚
ヲ捕ヘントスルノ類ノミ縣當局者ハ共同苗代ノ設置ニ依リテ經費ヲ減少ヲ來スヘシト云ヘハ明治
四十年十月十八日廣島縣農事試驗場ヨリ發行シタル「共同苗代ノ手引」ト題スル一小冊子ニ揭クル處
ト其内容ヲ同ウス而シテ同冊子ニ於テハ單ニ茫然トシテ「個人苗代ニアリテハ播種ノ初量選種ニ要

スル費用及苗代肥料代注油驅除ニ要スル石油量等一々之ヲ積算スレハ決シテ少ヤノ經費ニアラス然
レトモ共同苗代ハ是等ノ經費ヲ減少シ得ルノミナラス其効果到底個人苗代ノ及フ所ニアラス云々
ト揚言スレトモ果シテ如何ニシテ又如何ナル程度マテ經費ヲ減少シ得ルカノ具體的事實ハ寔ニ此冊
子ノ示サレ所ニシテ、以テコノ共同苗代ノ設置ニ依リテ經費ヲ減少ヲ見ルヲ得ヘシト云フハ何等
確實ノ根據ヲ有セサル空談ノ議論ナルコトヲ徵スルニ難カラス否事實ハ却ツテ當局者ノ揚言スル處
トハ反對ニシテ共同苗代ノ設置ハ非常ニ經費ヲ増加ヲ見ルニ至ル今左ニ其事實行ヲ列シ以テ此レヲ立
證セン

(一)個人苗代ニ於テハ各農家ハ資產ノ多少及ヒ家世上ノ都合等ニ依リ苗代田應肥ノ種類
ハ多少ノ相違アルモ概スルニ自家ノ下肥、雜糞水、糞灰、燒土、山芝、乾草、牛草、麻葉、牛馬糞、其他無代
價ニテ得ラル、種々ノ肥料ヲ以テ稻苗ヲ作育シテ、アリシ共同苗代ニ至ツテハ現品持寄リノ肥料
ヲ使用スルコト甚タ困難ナリ蓋シ各自所有セル下肥糞水等ニハ各遺失ノ差アリ、糞灰、燒土其他ニ於
テモ亦長否ノ別アリテ此ヲ鑑別セントスルニハ肥料分析等ノ事ニ長スルモノニアラサレハ不可能ニ
シテ到底肥料ノ現品持寄リハ實地ニ行フコト能ハス故ニ止ムヲ得ズ從來用井來リタル自家所有ノ下
肥糞水、糞灰、燒土、生草其他種種ナル無代價ニテ得ラルヘキ肥料ノ施用ヲ廢シテ新タニ現金購入ノ肥
料ヲ施用シ其代金ハ播種ニ應ジテ負擔セサルヘカサルヲ以テ其金額ハ植付田百町歩ニ付キ六百圓
内外ヲ支拂ハサルヘカラス嗟呼共同苗代ノ設置ニ伴フ肥料ノ購入ニ於テ農家ノ經濟ニ苦痛ヲ與フル
コト夫レ斯ノ如ク多大ナリ是レ共同苗代カ個人苗代ニ比シテ經費ヲ増加ヲ來スト言フ理由ノ第一ナ
リ

(二)元來苗代ナルモノハ數年ノ間同一ノ地所ニ之ヲ設置スルトキハ其苗代ノ爲メニ使用セラレタル
田地ハ稻苗ノ株ニ其肥土ヲ持去ラル、ヲ以テ如何ニ肥沃ノ地ト雖モ忽チニシテ荒瘠ノ田地ト變化シ
去ルコトハ固ヨリ掩フヘカサルノ事實ナリ故ニ苗代地ハ毎年ソノ地所ヲ變更スルノ必要アルト共
ニ日光及ヒ風通シ其他苗代地トシテ適當ナル條件ヲ具備シタル田地ヲ選定スルコトハ甚タ困難ナリ
又假令幸ウシテ此ヲ得ルトスルモ共同苗代ノ事實ノ通弊トシテモ普通ニ比シ一層高キ小作料ヲ支拂ハサ
ルヘカラス如此ハ農民ノ負擔ヲ重クシ農家ノ經濟ヲシテ益ヲ困難ナラシムルノ端ヲ披クモノナリ是
レ共同苗代カ個人苗代ニ比シテ經費ヲ増加ヲ來スト云フ理由ノ第二ナリ

(三)前項努力ノ不經濟ノ中第五日ニ於テモ述ヘタル如ク共同苗代ノ設置ハ一面努力ノ不經濟ヲ來ス
共ニ他ノ一面ニ於テハ經費ヲ増加ヲ見ル即チ共同苗代ヲ設置スルニ於テハ此カ管理、周旋、交渉、協
議、整理等諸般ノ事務ヲ擔當セシムルカタメ適當ノ管理者ヲ置カサルヘカラス而シテ管理者ニハ素
ヨリ相當ノ給料ヲ支拂ハサルヘカラス是レ共同苗代カ個人苗代ニ比シテ經費ヲ増加ヲ來スト云フ理
由ノ第三ナリ

(四)共同苗代ヲ設置スル時ハ組合員ハ各自夫役ニ從事スヘシト雖モ然レトモ茲ニ最モ困難ナルノ一
事ハ其夫役ニ從事スル組合員其ノ勞働力ニ甚タシキ差異アリテ爲メニ組合員間ノ苦情絶エス遂ニ
ハ別ニ人夫ヲ雇ヒテ此レニ賃錢ヲ支拂ハサルヘカサルノ結果トナル何トナレハ同シク組合中ヨリ
出テタル勞働者ト雖モ身體ニ強弱ノ別アルト同シク智識ニ賢愚敏鈍ノ差アリ又其技術ニ巧拙ノ相違
アルヲ以テ到底夫役出賃シノ不可ナルハ勿論其勞働者ニ等差ヲ設ケルコトニモ亦甚タ困難ナレハナ
リ乃チ其極必スヤ別ニ勞働者ヲ雇ヒテ作業ニ從事セシメ其賃錢ハ組合員各自ニ於テ負擔スルノ方法
ヲ採ラサルヘカラス斯クハ剩餘ノ重キニ泣ケル農民ヲ益々困窮スルヲ云フ理由ノ第四ナリ

(五)個人苗代ニヨリテハ稻苗ノ貯藏及ヒ糞糞水桶ノ設備等ニ於テハ從來使用シ來リタルモノヲ使
用スヘキヲ以テ新ニ之カ設備及ヒ購入ヲ要セザレトモ共同苗代ニ於テハ稻苗貯藏ノタメ新ニ之カ設
備ヲ要スルコト共ニ糞糞水桶ノ如キモ從來使用セル小形ノモノニテハ其用ヲナサレハ依リ新ニ多
クノ大形ノモノヲ購入セザルヘカラス此糞糞水桶ノ新設備ト糞糞水桶ノ新調トタメニ要スル
經費算少ナラサルヤ自ラ明カナリ是レ共同苗代カ個人苗代ニ比シテ經費ヲ増加ヲ來スト云フ理由
ノ第五ナリ

(六)共同苗代ハ個人苗代ニ比シ其設置ニ付要スヘキ經費ノ數額ニ於テ概テ左ノ如キ差異アリ
(甲)個人苗代一段歩ニ要スル出金概算
一人 夫 若干

但シ自家ノ男女自ラ隨時出役シテ經營スルヲ以テ殊更ニ出金スルヲ要セス

一耕牛馬 若干
但シ自家用ノ牛馬ヲ隨時使役スルヲ以テ別ニ出金スルヲ要セス
一肥料 若干
但シ自家ノ不用糞屑等ヲ以テ製スルニ付別ニ出金スルヲ要セス
一人糞 十五駄(駄ハ馬ノ一荷ヲ云フ人荷トスレハ二荷ニ相當ス)
此代金十圓十二錢五厘
但シ一駄ニ付六十七錢五厘
一糞粉 八斗
此代金七圓二十錢
但シ糞粉一斗ヲ現米六升ニ換算シ米一升ヲ金十五錢トス
一苗代地料 若干
但シ自己所有田ノ一枚若クハ其一隅ヲ使用スルヲ以テ別ニ出金スルヲ要セス
計金十七圓三十二錢五厘

(乙)共同苗代一段歩ニ要スル費用概算
一金六圓 整地、播種、施肥、人夫
男十二人 一人ニ付五十錢宛
一金二圓二十五錢 牛若クハ馬三日分
一日ニ付七十五錢宛
一金一圓五十錢 牛馬使用人夫三人
一人ニ付五十錢
一金五圓 水見廻り人夫十人
一人ニ付五十錢(但シ一日ニ付五十錢)
一金三圓七十五錢 堆肥十五荷
一荷ニ付二十五錢
一金十圓十二錢五厘 人糞十五駄代
一駄ニ付米四升五合(此代六十七錢五厘)
一金七圓二十錢 種粉八斗代
一斗ニ付九十錢六分止リノ見込ミ
一金三圓七十五錢 増小作二斗五升代
一斗ニ付一圓五十錢
一金五圓六十錢 麥七斗代
一斗ニ付八十錢(但シ麥地ヲ苗代ニ借入レニ付辨償)
一金一圓四十六錢五厘 縣下安藝郡本庄村五組合經費總額ヲ一段當テニナシタルモノ
計金四十六圓六十四錢

以上ノ計算ニ依ルトキハ共同苗代一段歩ノ經費ハ個人苗代一段歩ノ經費ニ對照シテ實ニ金二十九圓三十一錢五厘ノ増加ヲ見ル
(七)單ニ一段歩ニ付テノ經費ニシテ尙ホ且ツ斯クノ如シ況シテ之ヲ一村ニ實施スル共同苗代ノ經費ニ見テ其増加額之ヲ換言スレハ農民ノ損耗決シテ尠ナラサルナリ今假リニ廣島市ニ隣接セル安藝郡本庄村ニ對シテ共同苗代ヲ實施スルニ付田畑ノ總面積別二百五町三段四畝歩ニシテ一段歩ニ付約六升補種セハ種粉百二十三石二斗ヲ要シ其苗代ノ設クルニ方リ一段歩ニ付約八斗補種セハ苗床別十五町四畝歩ヲ要ス果シテ然ラハ共同苗代ノ經費ハ個人苗代ニ對比シテ一段歩ニ付約二十九圓三十一錢五厘ノ多キヲ要スルヲ以テ之ヲ其一村共同苗代用ニ供スヘキ苗床地ノ總面積十五町四畝歩ニ乘セハ四千五百四十四圓五十一錢ノ巨額トナル是レ實ニ一村則チ本庄村全園が共同苗代設置ノ爲メニ蒙ル所ノ損害ナリ
(八)又況シヤ右ノ比例ヲ以テ全縣下ヲ推セハ共同苗代ノ設置ノ爲メニ農民ノ蒙ルヘキ損害ハ驚クヘキ巨額ナルヲ即チ縣下ノ作付田地總段別ハ約十一万一千八百九十四町六畝歩ニシテ前項ノ割合ヲ以テセハ種粉四万四千七百三十五石ヲ要シ苗代用ノ數地即チ苗代床總段別五千五百九十一町八畝七畝歩ヲ要ス故ニ此苗代床ノ總面積ニ共同苗代一段歩ニ付テノ損失即チ經費ノ増加額金二十九圓三十一錢五厘ヲ乘セハ我カ廣島縣下ヲ通シテ金一百六十三万八千四百五十六圓ノ多額ヲ計上スルニ至ル是

レ全ク共同苗代設置ノ爲メニ縣下農民ノ頭上ニ負擔ノ重キヲ加ヘタルモノナリ試ミニ之ヲ明治四十二年度即チ前年度經費總額金百五十餘萬圓ニ比較セシテ共同苗代設置ノ爲メニ農民ノ蒙ルヘキ損害高ハ其經費ヲ超ユルコト十餘萬圓ノ多キヲ示セリ茲ニ我カ廣島縣ノ人口ハ約百五十萬ニシテ農民其三分ノ二ヲ占ム殘餘三分ノ一ハ非農民ナリ而シテ該縣費ハ獨リ農民ノ負擔ニ歸スヘキモノニ非スシテ縣民全體ノ負擔スヘキモノナルコトニ想到セハ農民ノ痛苦察知スルニ餘リアリ

其五 共同苗代ハ霜害ヲ蒙ルノ虞アリ
熟ク我カ廣島縣ノ地勢ヲ案スルニ用水至便ニシテ其灌溉排除ノ掛引自由ナル所ハ同縣下ヲ通シテ極メテ少ナク多クハ山間ノ僻村ナルヲ以テ谷受水ヲ以テ苗代田ニ灌溉セザルヘカラス故ニ比較的廣大ナル苗代ヲ設置スル時ハ實干シ乾ニ注油蟲害驅除防禦實行ニ際シテ一時ニ排水スルコトハ敢テ困難ナラスト雖モ之ニ反シテ日没ノ頃ニ至リ一降ノ灌溉スルハ谷受水湧泉水等ニ於テハ誠ニ不可能ノコトニ屬シテハ行届カサルニ方リテ早ク既ニ降霜ノ露ス所トナリテ其損害ヲ蒙ルニ至ル誠ニ個人苗代ニ至リテハ共同苗代ニ比シ比較的其苗代床ノ狹少ナルヲ以テ實干シ乾ニ注油蟲害驅除等ノ際ト雖モ灌溉ニ多クノ時刻ヲ費スカキコトナク要ハ水ノ灌排ニ付テノ便否彼此同日ノ論ニアラス

其六 共同苗代ハ管理者ノ選擇ニ困難ナリ
共同苗代ヲ設置スル時ハ之ニ伴ヒテ起ルヘキ諸般ノ事務ヲ整理處分シ或ハ交渉協議周旋調査等ノタメニ適當ナル管理者ヲ置クノ必要ナルコトハ前ニ陳フル所ノ如シ然カモ之カ適當ノ管理者ヲ得ルコトハ最モ至難ナリソレハ人ニハ性情ニ善惡ノ別アルヲ正邪ノ差アリ故ニヨク正直善良ニシテ信用深ク而シテ事務ヲ執ルノ才能ヲ有スル管理者ヲ得ルハ誠ニ容易ノコトニアラサルハ殆ト多辯ヲ要セザル所ナリ一朝其人選ニシテ誤リアラシカバ則チ縣當局者ノ説カカ如ク共同苗代ハ金銀無缺ノモノトスルモ到底其效果ヲ奏スル事能ハサルナリ

其七 共同苗代ハ地主ノ困難ヲ醸ス
幾千年ノ久シキ間幾多ノ經驗ヲ幾多ノ苦心トヲ積ミテ苗代ヲ設ケ來ルル農民等ハ單ニ一片ノ縣令ヲ以テ一旦ニシテ此經驗ヲ苦心ノ結果ニ成レテ個人苗代ノ制度ヲ破壞セラレ幾多ノ困難ト夥多ノ損害トヲ顧ミテ縣令ヲ違奉シテ共同苗代ヲ設置センコトハ固ヨリ可憐ナル彼ノ小作人等ノ善ク堪フル所ニアラス遂ニハ地主ニ向ヒテ小作料減額ノ請求トナリ若シ聽カレズンハ借用セル田地ヲ返還シテ他ノ有利ナル職業ニ從事スルニ至ルハ勢ヒノ止ムヲ得ザル所ナリ現ニ今年縣令ヲ布キ其強制ニ著手セラレテ以來縣下各町村ヲ通シテ其徵候到處ニ出現セリ是レ正ニ分配上ニ於テ資本主タル地主ノ所得ト努力者タル小作人ノ所得トカ相平均セザル場合ニ於テ經濟上必然起リ來ルヘキ現象ナリ故ニ共同苗代ノ設置強制ハ實ニ可憐ナル小作人ヲ苦シムルノミナラス延イテ地主ノ損失ヲ招クノ結果トナル豈恐レテ而シテ慍レサルヘケンヤ

其八 小規模ノ共同苗代ト爲スモ尙ホ不經濟ナリ
モシ一歩ヲ譲リテ縣令ヲ違奉センカ爲メニ一段歩以下ノ小規模ノ共同苗代ヲ一村內ニ數箇所設置スルトセン乎少シク手廣ク農業ヲ營ムルモノハ一人ニシテ數箇所ノ共同苗代組合ニ加入セザルヘカラサルニ至ルヤ論ヲ要セザル所ナリ而シテ此等一人ニシテ數箇所ノ組合ニ加入セルモノハ苗代地耕耘時期ニ際シテ同時ニ各組合ニ出夫セザルヘカラス而モ實際ニ於テ到底一人ノ農夫ニテハ數箇所ニ出夫スルコト能ハサルヲ以テ止ムヲ得ス相當ノ賃銀ヲ拂フテ數人ノ勞力者ヲ雇入レザルヘカラス由之見之苗代ノ共同設置ハタトヒ此レヲ小規模ノモノトナスモ右ノ不利益不經濟タルヲ免レス

其九 共同苗代ハ一國ノ風教ニ害アリ
共同苗代ノ設置強制ハ實ニ物質上ニ於テ少カラサル損失アルノミナラス一國風教ヲ維持ノ上ヨリ之ヲ觀ルモ又甚タ其危害アリ何トナレバ由來山間僻地ノ農民等ハ質實純朴、溫良正直決シテ虛言ヲ以テ人ヲ欺キ且詳術ヲ以テ法網ヲ免レシコト計ルカ如キモノニアラス然ルニ縣當局者カ單ニ皮相ノ空論ニ心醉シテ以テ共同苗代ノ設置ヲ農民ニ強制スル時ハ彼等ハ知ラズ識ラズ問此苦痛多クシテ損害少カラサル座ニ談スヘクシテ實地ニ行フヘカザル縣令ヲ免レンカマメニアラユル僞言計術ヲ構ヘテ以テ表面ノ形式ニ塗糊シテ當局者ヲ欺クノ止ムナキニ至ルヘケレハナリ是レ共同苗代ノ設置強制ハ物質以外風教上至大ノ害アリトナス所以ナリ

其十 稻種ノ統一ハ共同苗代ヲ必トセス
共同苗代ノ設置ハ稻種ノ統一ヲ計ルニ至便ナルコト縣當局者ノ説ク所ノ如シトスルモ稻種ノ減少ニ伴フ產米改良ハ稻種ノ制限其他ノ方法ヲ構スレハ足レリ故ニ稻種ノ種類多クシテ雜駁ナルハ地方產米

ノ評價ヲ傷クルヲ以テ之ヲ救フノ方途ヲ究ムルハ固ヨリ當然ノ理趣ナリト雖モ失費ノ多クシテ其手
數ノ複雑ナル共同苗代ヲ棄テ、實額ノ僅少ニシテ實施ニ簡易ナル米種制限其他ノ方法ニ就クヲ妥當
ナリトス

其十一 經濟學上ノ所見

以上說論スル所ニ依リテ共同苗代カ個人苗代ニ比シテ甚タ不利ナル理由ノ大要ハ之ヲ盡シタリト
信ス而シテ今具體的事實ヲ離レ經濟學上ノ見地ニ立テテ此レヲ說論スルノ必要ヲ感ス如何トナレハ
此共同苗代設置ノ如キハ決シテ政治問題ニテアラスシテ寧ロ經濟學上ノ攻究ヲ要スヘキ問題ナレハナリ
フニ經濟學上ノ熟語ヲ以テ之ヲ云ヘハ共同苗代設置ノ如キハ所謂大農制度ヲ取ルモノニシテ個人
苗代ハ即チ小農制度ニ依ルモノナリ經濟學上ノ所謂生産ニ必要缺クヘカハラサレ要件ナル勞力資本
土地ノ三者カ鼎足ノ勢ヒヲナスニ於テ土地ノ使用上或ハ大農制度ヲ採用シテ利益ナルコトアリ或ハ
小農制度ニ於テ却テ利益ナルコトアリ事物ノ場合ニ依リ決シテ一定ノ繩墨ヲ以テ律スヘカハラサ
モノアリ故ニ場合ニ應ジテ事物ニ對シテ適機ノ處置ヲ取ラサルヘカハラサレ農産品ノ如キハ概ネ食
品及原料品ニ屬スルヲ以テ共同法ニ依ル大農的ニ其生産ヲナスニ便利ナルカ如シト雖モ是レ誠
ニ遠慮深慮ヲ缺キタル淺慮ノ見解ナリト云ハサルヘカハラサレ譬ヘハ德島縣ノ一大特産トモ稱スヘキ藍
ノ耕作、京都府下宇治地方ノ名産ナル茶、佛國ボルドー地方ニ於ケル一大名産物タル葡萄酒ノ如キハ
最モ周密ナル注意ヲ加フルニ非サレハ其耕作ノ目的ヲ達スルコト能ハスト開ク故ニ共同法ニ依リ非
常ナル大仕掛ニナシテハ入手監督ノ行届カサル爲メニ品質ノ精良ナルコトヲ得ル能ハス爲メニ却
耕作者ノ損ヲ招クコト往々ニシテ然リ之ニ反シテ此種ノ耕作ニ個人經營ニ依リ且ツ小仕掛ノ方
法ヲ把リテ大イニ利益ヲ舉ルモノハ現ニ事實ヲ證明シテ餘アリ所ナリ從テ共同法ニ依リテ大農
的仕掛ヲ用ヒテ利益アリモノハ難獲、蕪草等ノ如ク粗大ノ物品ノ耕作ナリ而モ共同法ニ依リテ如キ地
ト農業制度ノ國柄トニアリテハ大イニ沈思熟考ヲ要スル問題ニシテ決シテ輕々ニ施行スヘキモノニ
アラス蓋シ此ノ如キ耕作ニ依リテ利益ヲ得ルモノハ特ニ精巧ノ勞力ヲ要セスシテ大イニ機械力ニ委
スヘキモノニシテ且監督者ハ馬上ニ跨リテ東西南北ニ馳驅シテテ普ク一人ニシテ廣ク勞力者ノ監督
ヲナシ得ルコト云フカ如キ地方タトヘハ北米合衆國、カナダ地方、南米ブラジル、アルゼンチン等ノ如キ
地方ニ於テ始メテ克ク其利益ヲ收メ得ヘキモノタルニ過キ去レハ分量ノ多大ナランコトヲ第一
ニシ品質ノ良否如何ヲ第二ニシ粗大ノ農作物ノ耕作スルニハ固ヨリ共同法ニ基ク大仕掛ノ方法
ニ依リテ利益トシテモ若シ品質ノ佳良ナランコト第一ノ條件ナルシテ分量ノ多少如何ノ如キナ
リトス是レ實ニ東西ニ於ケル經濟學上ノ學說ノ一致スル所ニシテ又實驗家ノ首肯ナル所ナリ故ニ本
縣當局者カ縣令ヲ以テ設置ヲ強制セントスル共同苗代ノ如キハ當ニ雨風暴自ラ勸誘ヲ握リテ農
ニ從事セル實驗家タル農民ノ其不利ヲ絕對止マサル所而モ其範圍ノ至當ナルノミナラス學殖
深遠ナル東西經濟學者ノ學說ノ共ニ符合スル所ナリ之ヲ要スルニ由來本縣當局者ハ複雜多難ナル
縣政ヲ施行スルニ方リ往々學說ヲ演繹シテ此レヲ實地ニ應用セントスルノ通弊アリ然ルニ
此學說上ノ議論タル經濟學上ノ學說ヨリ演繹シテ之ヲ立論スルモ本縣當局者カ縣令ヲ以テ共同苗代ノ
設置ヲ強制セントスルカ如キハ何ニ等ノ根據何等ノ價值ヲ有セサル施政ニシテ利ヘ農民ニ苦痛
ヲ與ヘテ利益ヲ經クモノナリト云ハサルヲ得ス而シテ其共同苗代設置ノ如キハ寧ロ是レ政治上ノ問
題ニアラスシテ經濟上ノ問題ナリト云ハサルニ見ヨ縣下農民ハ如何ニ愚ナリト雖モ利益ヲ棄テ損失ヲ取
ルカ如ク愚者ニアラサルコトヲ故ニ果シテ眞ニ共同苗代ニシテ當局者ノ揚言ノ利ヲ如ク有リタルモ
ナランニハ假令當局者カ法令ヲ以テ禁止ストモ犯シテ以テ有利ナル共同苗代設置スルモノヲ生
セシコト絶無ナリト云フヘカハラサレ左レハ此經濟學上ノ問題ハ之ヲ法令ヲ以テ強制スルカ如キ手段ニ
出テス餘クニ利益ノ有ル所ヲ說キテ農民ヲ諭サハ愚ナル彼等ト雖モ豈久シク自家ノ損害ヲ忍ブノ拙
策ニ出スルモノナランヤ況ンヤ共同苗代設置ノ強制ハ前來所述ノ如ク實地ノ上ヨリ見ルモ學說ノ上
ヨリ察スルモ共ニ損害アリテ利益ナキ施政タルニ於テヤ然ルニ縣當局者ハ本年八月七日縣令第七
十號ヲ以テ共同苗代設置規則ヲ發布シ以テ之ヲ強非ントス是レ經濟問題ヲ驅リテ政治問題中ニ投ス
ルモノナリ

以上ハ廣島縣ノ議政府タル當縣會カ縣民ノ意思ヲ代表シテ發シタル叫喚ノ聲ナリ而シテ今ヤ當縣ノ
首府タル廣島市ニ於テ發行スル新聞紙ノ報スル所ニ依リモ縣下各地ニ在ツテ其聲益々盛ニシテ民論
ノ勃興ト共ニ共同苗代設置ニ付テノ我カ廣島縣知事宗像政ノ政策ニ非ラ鳴ラシテ痛苦ヲ訴フル者追
官報號外 明治四十二年二月七日 衆議院議事速記第六號 橫山金太郎君ノ質問演說 六三

日多キヲ加フ乃チ上來續述セル所ノ卑懷ニ右縣下各町村ニ於ケル實情ヲ參酌セラレハ庶幾クハ本
縣知事ノ共同苗代設置ニ干スル施政ノ良否ヲ判斷セラル、ノ餘師タルヲ得シ平噫
右ノ通りニ候也

明治四十一年十二月十二日

廣島縣會議長 宮原 幸三郎

○議長(長谷場純孝君) 石橋爲之助君

〔石橋爲之助君登壇〕

○石橋爲之助君 私が質問セント欲スル事項ノ一班ハ既ニ豫算委員會ニ於キマシテ
二三ノ方ミカラ御質問ガアリマシテ、政府當局者ノ答辯ヲモ傍聴シタリデアリマスガ、其御
答辯ニ對シテ尙要領ヲ得ナイ點モアリマスシ、尙斯ウ云フ事柄ハ公會ノ性質ヲ有シテ
居リマスストコロノ本議場ニ於テ質問スルヲ至當ト感シマスニ依ッテ、更ニ制規ノ手續
ヲ經テ茲ニ質問ヲ提出シタリデアリマス、極ク簡單ニ說明致サウト思ヒマス、第一ノ質
問ハ「現今ノ租稅徵收方法ハ其設備不十分ニシテ納稅者ヲシテ時間ヲ空費セシムルコ
ト甚シ政府ハ更ニ簡便ナル徵收方法ヲ講スルノ意ナキヤ如何」ト云フデアリマス、此事
ハ全國何レノ地方モ同様デアリマスヤ否ヤハ存ジマセスガ、帝國商業ノ中心トナツテ居リマ
スストコロノ私ノ選舉區ニ於キマシテ、百万ノ市民ガ悉ク感シテ居ルストコロノ事實デアリマ
スルガ故ニ、小サイ問題トシテ看過スルコトナク、政府ニ於ケレマシテハ十分満足スルストコ
ロノ答辯ヲ與ヘラレンコトヲ希望スルデアリマス、ソレドウ云フコトデアリマスサト申シ
マスレバ、大阪市ニ於キマシテ現今租稅ヲ徵收スル機關ニナツテ居リマス、ハ、四區役所
デアリマス、四箇ノ區役所デアリマス、其區役所ニ一二名ノ現金扱人ガ出張致シマシ
テ、小サナ窓カラ其納稅期日ニ澤山人民ガ納メニ來ルストコロノ其稅ヲ一々收メテ居ルデア
リマス、故ニ其納稅期日ニ其所ニ集メテ來マストコロノ人數ト云フモノハ實ニ何千ト
云フ程ノ人間集メテ來ルデアリマス、ソレガタメニソレヲ一々收メテ居リマスストコロノ其
人間ノ少ナイガタメニ立往生ヲシテ長ク待タサレテ居ルモノガ、是又幾百ト云フ程ニ
アルデアリマシテ、其稅ヲ納メタルタメニ要スルストコロノ時間ハ實ニ長イ時間デアリマス、殆ド
半日以上一日モソレガタメニ費サナケレバナラヌト云フヤウナ實際ノ狀況デアリマス、畢
竟此大阪市ニ滞納者ノ多イト云フヤウナコトヲ申シマスルガ、其原因ノ一ハ確ニ斯ノ如
キ徵稅ノ機關ガ不整頓デアルト云フコトニ歸シテ居ルスト云フコトヲ信ジマス、現ニ其徵稅
ノタメニ隨分多額ノ金ヲ用非テ居ルデアリマスケレドモ、ソレニ充テ、アルストコロノ金額
ニ相應シタル設備ガ出來ナイタメニ斯ノ如キ不經濟ナルストコロノ現象ヲ呈スルデアリ
マス、大阪ノ如キ處ハ商業工業ヲ以テ生命トスル土地デアリマスルガ故ニ、時は金ナリト
云フトコロノ格言ハ最も適切ニ行ハレテ居ル處デアリマス、故ニ勢ヒサウ云フ面倒ナル半日
若クハ一日ヲ費サンケレバナラヌト云フヤウナ面倒ノタメニ、其納稅期日ヲ殊更ニ經過スル
モノモ隨分アルデアッテサウシテ其結果ハドウナルカト云ヒマスルト、ヤハリ督促ガ參リ督促
ガ參ッテモ、マダ棄テ、置クト云フト、遂ニハ即チ強制的ノ差押ニ參リマス、其差押ニ參
タキニソコデアリマス、差押ヘシメルト云フコトニシマス、詰リ納稅ノタメニ態、其區役所マ
デ出テ往タトコロノ煩勞ヲ省カル、ノデアリマス、故ニサウ云フ便法ニ依ッテ滞納スル
云フヤウナモノハ隨分アルデアリマスカラ、詰リ滞納者ノ多イト云フコトニ付テハ政府ガ
其設備ヲ怠ツテ居ルスト云フトコロノ責ガ其一部分ノ原因デアルト云フコトヲ認メネバナリ
マセヌ、ソレ故ニ之ニ對シテ更ニ簡便ナトコロノ徵收方法ヲ採ッテ貰ヒタイ、即チ既ニ通知
書ヲ配付スルト云フトコロノコトモナシ、又督促モナシ、又強制的ニ取集メニ往クト云フ、
此二度モ三度も手數ヲ繰返サレ位、ソレダケ手間ヲ取ルトコロノ餘裕ガアルナラバ、初
メカラ何故ニ總テノ納稅者ノ稅金ヲ政府ノ方カラ取集メニ廻ルト云フ便法ヲ何故ニ取

云フヤウナ結果ニナツデ居リマス、ツレデ詰リ富者ニハ苛酷ニアラズシテ貧者ニハ極苛酷ト云フトコロノ結果ガ生ジテ來ルノデアリマスガ、其證據トシテ大藏大臣閣下ハ昨年大坂ニ御出アデナリマシテ藤田傳三郎氏ノ邸ニ御泊リニナリマシタガ、若シモ之ガ藤田傳三郎氏ニ對シテ他ノ國民一般ニ爲スガ如キ誅求ヲ爲シテ居ッタデアッタナラバ、必ズヤ一言デモ此大藏大臣閣下ノ耳ニハ這入ッタニ相違ハナイケレドモ、大藏大臣閣下ハ豫算委員會ノ答辯ニ、世間申ス程ノコトハアリマセスト云フコトニ明言セラレテ居リマス、故ニ此藤田組ナドニ對シテ爲ストコロノコトハ寛大デ、少シモ誅求ノ實ノナイト云フコトヲ證明スルニ足リマス、尙大藏大臣ガ最近ノ日本紳士錄ニ依リマスルト御納ニナツデ居ルトコロノ所得稅ガ四百二一圓トナツテ居リマス、又新嘉坡附近ニ時價百萬圓程ノ廣大ナル護謄ノ森林ヲ有シテ、年々幾萬ノ收入ヲ得テ得ラルト云フ風説ノアリマストコロノ後藤遞信大臣閣下ニ於キマシテハ、二百二十九圓ノ所得稅ヲ納メテ居ラレマス、他ノ大臣諸君モ二百圓乃至ハ五百圓ト云フ程度デアリマス、故ニ御自身ニ御考ヘニナツデモ確カニ誅求ヲ受ケテ居ナイト云フコトハ御明言スルコトガ出來ルノデアリマス（拍手スル者アリ）併シナガラ藤田若クハ御自分若クハ御自分ノ親ンデ御出デニナルトコロノ官省ノ連中ガ誅求ヲ受ケテ居ラヌカラト云ウテ、日本國民ノ大部分ノ間ニ決シテ世間申ス程ノ事實ハアリマセスト、斯ウハ斷定スルコトハ出來ナイノデアリマス、故ニ一度大臣閣下ガ稅務署ガ如何ナルコトヲシテ居ルカト云フコトヲ微服シテ實際ニ御覽ニナレバ大ニ二分コトト思ヒマス、若シサウ云フコトガ出來マスレバ、今最明寺殿ト申シテ私共ハ大ニ讚歎ノ語ヲ發スルコトガ出來ヤウト思ヒマス、現ニ此各稅務署ニ於テ此頃ハ丁度此營業稅ノ届出ヲ終タ頃デアリマシテ、是ヨリボツ／＼此決定額ヲ示サレテ、不服ノ者ガ苦情ヲ申出ルトキデアリマスカラ、是カラ御出立ニナレバ其實況ハ確カニ見ルコトガ出來ヤウト思ヒマス、昨年ノ實況ハ私ハ自ラ其所ヲ見テ參ッテ、非常ニ打タレタノデアリマス、ツレハ諸君モ御承知ノ通り稅務署ニ參リマスト云フト、此不當ノ決定ヲ與ヘラレタガタメニ此異議ヲ申立テ參ッテ居ルトコロノ者ガ、實ニ山ノ如ク群ッテ居リマス、サウシテ之ニ對スル稅務官吏ノ態度ト云フモノハ、傲慢無禮デアツテ、唯モウ一言愈ノ端カラ不服デアレバ異議ノ申立ヲセヨ、唯ツレダケデ、尙ツレデ執拗ク辯明ヲスルトコロノ者ガアルト云フト、左程不服デアアルナラバ、行政裁判ニ掛ケロ、然ラザレバ廢業セヨ、實ニ稅務官吏トシテ洵ニ甚シイトコロノ廢業セヨト云フ様ナ言葉マデモ憚ラズ吐クヤウナコトガ、實際ニ澤山見受ケタンデアリマス、サウシテ此理窟ノ言ヘル者ハ、理窟ヲ言テ爭フコトガ出來マスケレドモ、女ノ如キ、或ハ老人ノ如キ、稅務官吏ガ非常ナ權幕デ以テ之ヲ逐還サントシマストキニハ、モウ一言モ言ヒ得ズシテ引退ケモノガ、之ガ大部分ヲ占メテ居ルノデアリマス、サウシテ異議ヲ持出サントスレバ、書面ニ依ッテ持出サナケレバナラヌ、稅務署ノ門前ハ市ヲ爲シテ居ルト云フ有様デアリマス、彼等ハ多ク泣寢入ニナツテシマフノデス、政府ニ對スル怨嗟ノ聲トナツテ到處ニ聞イテ居ルノデアリマス（「簡短」ト呼フ者アリ）所ガ政府ハ大藏省ノ官吏ヲシテ昨年サウ云フ事實ノアルヤ否ヤト云フコトヲ調査スルタメニ、各地方ニ人ヲ派遣セラレタト云フコトデアリマス、併ナガラ其時ハ既ニモウ所得稅モ營業稅モ決定ノ即チ濟ンダ後デアリマシテ、國民ハ泣寢入ニ寢入ッタ後デアリマス、寢入ッデシマッタ處ヲ巡視シマシテ歸デ參リマシテ國民ハ皆寢入テ居リマス、泣イテハ居リマセヌ斯ウ云フ報告デアリマス、既ニ時機ノ去ツデシマッタモノヲ其跡ヲ唯表面ダケ見デ廻ッデサウシテ斯ウ云フ無責任ナルトコロノ報告ヲスルト云フヤウナ譯デアリマスカラシテ、ウコデ大藏大臣閣下ガ下情ニ通セラレザルトコロノ答辯ヲセラレタモノデアラウト考ヘラレレ、尙其大藏省ノ屬官ノ上申スルトコロヲ聞ケバマダ／＼民力ハ負擔ニ堪エル、マダ／＼堪ヘルト云フコトヲ力ヲ込メテ

言ハレテアリマス、故ニマダノ負擔ニ堪エラレルカヲ幾ラデモ取レルト云フ意味ニ解セラ
レル、實ニ不法極タ言アリマス、然ルニソレハ昨年ノコト、致シマシテ四十二年度ニ
於テハ果シテドウ云フ徵收法ヲ執ラレルカト云フコトヲ考ヘテ見マスルニ、去ル二十七日ノ
大阪朝日新聞ニ斯ノ如キ記事ガアリマス、一稅務署側ニテハ昨年ヨリ不景氣ナル理由ナ
シトテ寧ロ説諭訂正ヲ改メテ直ニ職權査定ヲナスベシト云ヘバ又、苦情頻出セン模
樣アリト云フ記事ガアリマス、大藏大臣ノ説明ニ據リマスルト四十二年度ノ豫算ハ四
十一年度ノ實收額ヨリ百分ノ五ヲ減シテアルト云フ御説明アリマス、併ナガラ豫算ノ
面ヲ見マスルト云フ、所得稅ニ於テモ、營業稅ニ於テモ、前年度ヨリハ二百十五萬餘
圓ノ増額ヲ所得稅ニ於テ百十八萬圓餘ノ増額ヲ營業稅ニ充テ、アリマス、ソレ故ニ政
府ノ内情ヲ知ラザルトコロノ地方ノ其稅務官吏ハ唯此豫算案ノ表面ダケヲ見マスル、ヤ
ハリ四十二年度モ昨年ヨリハ餘計ニ增收シナケレバナラヌト云フ事實ガアルノデアルカラ、
ソレニ對シテヤハリ其忠勤ヲ擢ンズルト云フ考ヲ以テ益々誅求ヲ加ヘルト云フ事實ガ茲ニ
現ハレントシテ居ルデアラウト私ハ斷定ヲ下スンデアリマス、故ニ政府ハ果シテ四十一年
ノ實收額ヨリ百分ノ五ヲ減シタト云フコトガ趣意デアリマスナラバ、此際各地ノ稅務官
ヘ其趣意ヲ御訓示ニナツテ、昨年ノ如クア、云フ苛酷辛竦ナル手段ヲ執ラナイヤウニセヨ
ト云フ御訓示ヲ發スルコトガ必要デアラウト考ヘマス、國民自身モ大藏大臣閣下ノ言ヲ
服膺致シマシテ、昨年ヨリ本年ハ百分ノ五ヲ減セラレタルト云フコトヲ十分念頭ニ置
クコトガ必要デアルト考ヘマス、大藏次官ハ一人ニテモ不當ノ課稅ヲセラレタ者ガアツタナ
ラバ拾遺クト云フコトハ出來ナイト云フ言葉デアリマス、現ニ私ノ手許ニハ其不當ノ
稅ヲ強ヒラレタコロノ訴ノ書面ヲ受取ッテ居ルノガアリマス、若シ御覽ニ入レテ差支ナケレ
ハ御覽ニ入レテ宜カラウト思ヒマス、他ニ諸君ノ中ニ於テサウ云フ事實ハ澤山見テ居
レルコトデアラウト思ヒマス、要スルニ斯ウ云フ事實ヲ一掃シヤウト云フ今日唯今政府
ハ果シテ昨年ノ如キトコロノ苛察誅求ヲ再ビスルト云フコトハ爲サラス考デアルカ、爲サ
ヌナラバ、ソレニ對シテ相當ノ手段ヲ採ラレデアラウカ、其點ヲ質問致シタイノデアリマ
ス(拍手)

(金尾稜嚴君登壇)

(拍手起ル)

○金尾稜嚴君 本員ヨリ提出致シマシタル質問中、其一ハ韓國橫貫鐵道ノ件デアリマ
ス、此質問ノ要旨ハ第一韓國橫貫鐵道ノ重要ナル部分、即チ平壤若バ京城ヨリ元山ニ
達スル鐵道敷設ノ時期ニ關スル政府ノ所見ヲ質問第一ニ若シ政府ニテ敷設ノ計畫ガ無
イト云フコトニ致シマスレバ確實ナル鐵道會社ノ出願ヲ許可スルヤ否ヤト云フコトヲ確カ
メマシテ、韓國經營ノ完成ヲ助ケタイト考ヘマス、此橫貫鐵道ハ韓國經營中ノ最モ緊
急ナルモノデアリマシテ、即チ韓國ノ西海岸支那ニ對スル方面ト、東海岸即チ我母國ニ
對スル方面トコノ方面トヲ聯絡スルノ線路デアリマス、諸君、二十七年以來兩度大戰
役ノ效果ヲ永遠ニ確保シテ韓國ノ經營ヲ完全ニセント欲スレバ先ヅ其兩端ニ於テ交通
通ノ便ヲ自由ニスルト云フコトハ最モ緊急ノコトデアリマス、故ニ第二十二議會以來此
線路ノ敷設ニ關シマシテ請願書モ度々出テ居リマス、其都度兩院ニ最モ歡迎セラレタ
所デアリマシテ、政府ヘ度々轉送サレタノデアリマス、ソレニモ拘ラバ政府ニ於テハ容易
ニ敷設スベキ趣ガゴザイマセヌ、故ニ一昨年ニ至ッテ私設鐵道會社ヲ起シテ相當ナル條
件ノ下ニ補助ヲ仰イデ以テ出願セントスルニ際シマシテ、朝野有力ナル諸君ノ御賛成ガ
アツタノデアリマス、然ルニ其後陸軍大臣ガ渡韓セラレマシタ、其後俄ニ鐵道會社ノ出願
ヲ許可シナイト云フコトニ關シテ一變シタト云フコトヲ傳聞ヲ致シマシタ、終ニ中止トナッ

テ在昔今日ニ至ツタノデアリマス、若シ此儘ニシテ拋棄シテ置キマスレバ、實ニ山陰北
陸一帶ノ裏日本ヨリシテ日本海ヲ橫切ッテ北緯一帶ノ地ニ於ケル無限ノ物資ハ悉ク利
生ノ途ヲ杜絶セラレマシテ、若クバ驚クベキ勢ヲ以テ經營セラレツ、アリマスルコロノ浦
鹽斯德ヲ中心トシテ、露國ノ新ナル東亞通商ノ大政策ニ一攫セラレマシテ、此方面
一帶ノ物資ハ浦鹽斯德ヨリ西北利亞鐵道ニ由ッテ開拓セラレテ、流石ノ南滿洲ノ鐵道
モ京釜鐵道モ必ズ其利益ノ中ヲ奪去ラル、ト云フ奇策ヲ呈スルデゴザイマセウ、凡ソ滿
韓經營ノ真義ニ到達スベキ鐵道政策ト致シマシテハ、少クモ義州ヨリ奉天ヲ經テ長春、
長春ヨリ吉林ニ、吉林ヨリ會寧、慶興ヲ經マシテ咸鏡道ノ海岸ニ沿ッテ咸興ニ入り、元
山ニ達シ、而シテ元山ヨリ直チニ京義線ニ聯絡スベク平壤ニ出テ更ニ鎮南浦ニ臨ム大
鐵道ヲ敷設シテ以テ、滿洲北緯ト裏日本ト聯絡スルノ方針ヲ採ラザル可カラズ、即チ之
ガ手初メタルモノガ此橫貫鐵道デアリマス、之ヲ政治上ニ軍事上ニ見、之ヲ經濟上ニ
察シ、實ニ急務中ノ急務デアリマス、然ルニ政府ハ之ヲ緩漫ニ附シ去ルハ勿論偶、鐵道
會社ナルモノガ起リ、之ヲ出願セントスルモ許可シナイト云フ方針ヲ採ルト云フコト
ガ、若シ事實デアルトシマスレバ、果シテ政府ハ何ノ見所アツテ、斯ノ如キ大切ナ事ヲ緩
漫ニ附シ去ルカ、其意見ヲ確カメテ、而シテ之ニ對スル處置ヲ講ゼネバナラヌト信ジマス、
實ニ滿韓ヲ聯絡貫徹スルコトハ一大戰役ノ效果ヲ永遠ニ確保セントスルニ一日モ等閑
ニ附スルコトガ出來ナイ問題デアラウト考ヘマス、而シテ私設會社トシテ取調ベマシタ測
量ニ關スル事情、總テ物資集散收支ノ豫算等ノコトニ付キマシテ、精密ノ調査ノ書類ガ
アリマスガ、一ニ數字ヲ此處デ讀ム上ケマシテ皆樣ノ御修厭ヲ來スト云フコトヲ恐レマスガ
ラ、質問ノ大體ヲ述ベルニ止メタイト考ヘマス、次ニ第二ノ質問ハ日露戰役中個人ノ損
害ニ對スル救済ノ件デアリマス、凡ソ海外ニ奮闘シツ、アルコロノ同胞ノ元氣ヲシテ沮
喪セシメズ、益々之ヲ鼓舞シマスルト云フコトハ殖民政策ノ上ニ於テ政府當然ノ職務デア
ラウト考ヘマス、併ナガラ斯ノ如キ問題ハ弊害ノ之ニ伴フト云フコトニ憚リマスカラ、多
ク之ヲ公言スルコトヲ憚リマス、併ナガラ弊害ノ之ニ伴フト云フコト、茲ニ其モノトハ
全ク別問題デアリマスケレドモ、成ルベク弊害ノ件ハナイ限リニ於テ事實ヲ明カニスル
ト云フコトハ無クテハナラヌコト、考ヘマス、本員共ノ目的トスルコロニ據リマス、日露
戰役中元山ノ商人共ハ先ヅ戰爭前既ニ天津ノ開港ニナリマシタ當時領事ヨリ頻リニ勸
誘ヲ受ケマシテ天津ニ移住ヲ勸メラレタ、家屋倉庫ヲ始め總テ從來蓄積ヲシマシタコロ
ノ資本ヲ之ニ蕩盡シマシタマツ、然ルニ日露戰役ノ始メドウデアアルカト云ヘバ固ヨリ城
津ハ戰國區域外ヲ守備隊モ居リマセヌ、身ニ防禦ヲナスベキトコロノ寸鐵ヲモ帶ビナイ、
併シ敵國ト領土ヲ接シテ居リマスカラ萬一ヲ虞シテ領事ニ頻リニ退去シマセウカト云フコ
トヲ打合セテ見マスル領事ハ決シテ退去スルニ及バズ、危險ノ虞ハナイカラ、此儘ニ居レト
引止メタ、サウシマシテ居リマス中ニ俄ニ三十七年ノ四月十五日露國ノ一隊ノタメニ
蹂躪セラレテ、家屋倉庫ハ勿論、財產ノ全部ガ烏有ニナツテ、僅ニ身ヲ以テ免レタ、斯
ウ云フ有様デアリマス、是ハ本員ノ目撃シマシタコロノ一部デアリマス、凡ソ斯ノ如キ
ノ類ハ他ニモ澤山アルデアラウト考ヘマス、是等ニ對シテ政府ハ必ズ調査ベシマスレバ貿易事
務官ニ就クナリ、領事廳ニ就クナリ徹スベキトコロノ材料ハ十分殘シテ居ルデアリマスカ
ラ、是等ヲ基礎トシテ十分ノ調査ヲシテ相當ナル救済ノ道ヲ講ジマスコトハ私ハ國家ノ
責任デアルトマデハ斷言ヲ致シマセヌガ、國家トシテ將ニ宜シク爲スベキトコロノ職務ノ一
端デアラウト考ヘマス、此事ニ付キマシテ政府ノ所見ヲ尋ネタイノデアリマス、大分質問
モ澤山アリマシテ皆サマ御倦怠ノ趣キニ見エマスカラ、ホンノ概略ダケヲ述ベテ置クニ止メ
マス

○議長(長谷場純孝君) 細野次郎君

○細野次郎君 先キノテ宜シイ、アレニ答辯シテ下サレバ政府委員ハ別ニ説明セヌデモ御分リニナラウト思ヒマスカラ

○議長(長谷場純孝君) 日程第一砂鑛法案第一讀會、是ハ條數ガ多數デゴサイマスカラ議案朗讀ヲ省略シヤウト思ヒマスガ、御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス

第一 砂鑛法案(政府提出)

第一讀會

砂鑛法案

第一條 本法ニ於テ砂鑛ト稱スルハ砂金、砂鐵及砂錫ヲ謂フ

金鑛ノ廢鑛又ハ鑛滓ニシテ主務大臣ニ於テ其ノ存在狀態砂金ト類似スト認メタルモノハ之ヲ砂金ト看做ス

第二條 本法ニ於テ砂鑛業ト稱スルハ砂鑛ノ採取及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第三條 本法ニ於テ砂鑛區ト稱スルハ砂鑛權ノ登録ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

第四條 砂鑛權者ハ砂鑛區内ニ於ケル各種ノ砂鑛ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ第六條ノ砂金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 砂鑛區鑛區ト重複スル場合ニ於テハ砂鑛權者及鑛業權者ハ其ノ採取及探掘又ハ試掘ニ付互ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者又ハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタル決ニ不服アル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條 金鑛ヲ目的トスル鑛業權者ハ其ノ探掘鑛區内ニ存スル砂金ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ其ノ鑛區内ニ既ニ存スル砂鑛區ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ鑛業權者ハ砂金ノ採取ニ關シ之ヲ砂鑛權者ト看做ス

第七條 砂鑛權ハ相續、讓渡、抵當權、滯納處分又ハ強制執行ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス

第八條 砂鑛權ヲ得ムトスル者ハ願書ニ砂鑛區圖ヲ添ヘテ主務大臣ニ出願スヘシ

第九條 砂鑛出願地他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ

土地所有者ハ命令ノ定ムル期間内ニ於テ自ラ砂鑛權ノ出願ヲ爲ストキノ外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條 砂鑛出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得但シ主務大臣ニ届出ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十一條 砂鑛權者ハ砂鑛區ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ砂鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ抵當權者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十二條 砂鑛權者他人ノ土地ニ於テ砂鑛ヲ採取セムトスルトキハ土地所有者、地上權者、永小作權者又ハ土地ニ對シ使用ノ權利ヲ有スル者ハ之ニ對シテ相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第一讀會

第十三條 前條ノ請求權者ハ砂鑛權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第十四條 砂鑛權者補償金ノ拂渡ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ第十五條ノ請求權者ハ砂鑛ノ採取ヲ拒ムコトヲ得

第十五條 補償金又ハ其ノ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十六條 前項ノ裁決アリタルトキハ其ノ未タ確定セサルトキト雖砂鑛權者ハ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供託シテ砂鑛ヲ採取スルコトヲ得

第十七條 鑛業法第三章ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス但シ同法第五十六條ニ依ル土地ノ使用ハ左ノ場合ニ限ル

一 洗鑛

二 製鍊所ノ建設

三 洗滌用水路及溜池ノ開設

四 砂鑛原料ノ置場

第十八條 當該官吏砂鑛業取締ノ爲必要アリト認ムルトキハ工場其ノ他ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得

當該官吏臨檢ノ際砂鑛業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、搜索及差押ニ關シテハ問接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第十九條 權利ヲ有セスシテ砂鑛業ヲ爲シ又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ砂鑛採取ノ許可ヲ受ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第二十三條ニ於テ準用シタル鑛業法第十條第三項又ハ同法第七十二條ノ命令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 砂鑛權ノ出願又ハ砂鑛業ノ爲ニ他人ノ土地ニ立入りテ測量又ハ檢査ヲ爲ス場合ニ於テ鑛山監督署長ノ許可ヲ受ケスシテ障害物ヲ除去シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ノ訊問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十三條 鑛業法第五條、第六條、第七條第一項第二項、第十條、第十二條、第十五條、第十九條、第二十條、第二十七條、第三十二條、第三十三條第一項第二項、第三十五條、第三十八條乃至第四十三條、第四十九條、第七十二條、第七十四條、第八十七條乃至第八十九條、第九十一條乃至第九十三條、第三百三條及第四百四條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シテ之ヲ準用ス

附則

第二十四條 本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

砂鑛採取法ハ之ヲ廢止ス

第二十六條 本法施行前ニ金鑛ヲ目的トスル鑛業ノ出願ヲ爲シタル者第一條第二項ノ砂金ノミヲ採取セムトスルモトキハ命令ノ定ムル期間内ニ之ヲ鑛山監督署長ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ鑛業ノ出願ハ願書發送ノ日時ニ於テ砂鑛權ノ出願ニ代リタルモノト看做ス

第二十七條 本法施行前設定シタル鑛業權ニシテ第一條第二項ノ砂金ノミヲ目的トスルモノニ付テハ命令ノ定ムル期間内ニ其ノ鑛區ニ付砂鑛權設定ノ登錄ヲ申請スヘシ其ノ登錄アリタルトキハ鑛業權ノ上ニ現ニ存スル權利義務ハ砂鑛權ノ上ニ存續ス

前項ノ鑛業權ニ關シテハ砂鑛權ノ登錄アル迄仍舊鑛業法ヲ適用ス

第一項ノ鑛業權ニシテ鑛業財團ヲ組成スルモノニ付テハ砂鑛權ノ登錄アリタル後ト雖其ノ財團ノ關係ニ於テハ之ヲ鑛業權ト看做ス

第二十八條 本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十九條 本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分ニ對スル訴訟、訴訟、判定、裁定又ハ裁決ニ關シテハ各砂鑛採取法又ハ鑛業法ノ規定ニ依ル

(農商務大臣男爵大浦兼武君登壇)

○農商務大臣(男爵大浦兼武君) 諸君、今茲ニ議題ニ上ッテ居リマストコロノ砂鑛法、此砂鑛法ノ大體ニ付キマシテ簡單ニ說明ヲ致シタイト存ジマス、現行ノ砂鑛法ハ明治二十六年ノ制定ニ掛リマシテ、其後時勢ノ變遷種々進歩發達デ以テ現行ノ規程ニ最も適シナイ處ガゴザイマス、加之不備ノ處モ往々少ナカラヌデゴザイマシテ、ソレ故ニ此度改正ヲ提出シタル譯デゴザイマス、其主要ノ點ヲ二三舉ゲマスレバ、第一ニ金鑛ノ廢鑛鐵滓ニシテ誠ニ砂金ト似タルモノガゴザイマシテ、其砂金ノ似タルモノハ即チ今度ノ砂鑛法ノ支配ニ屬セシムルコト、ソレカラ第一ハ是マデ外國人ハ如何ナル形式ニ依ッテモ砂鑛權ガ得ラレヌデゴザイマス、是ハヤハリ鑛法業ト同ジク日本帝國ノ法人ノ社員トナッタ以上ハ砂鑛權ヲ得セシムルコト云フコトニシタガ一デゴザイマス、ソレカラ第二ハ砂鑛權ヲ抵當權ニ致シマシテ資金ノ融通ヲ計ルト云フガ如キコト、先ヅ大體此二三ノ理由ガ改正ノ要點デゴザイマス、尙委員會等ニ於キマシテ御質問ニ對シテソレソレノ說明ヲ致シマス、何卒御協賛アラントヲ希ヒマス

(第二ノ日程ニ移ランコトヲ望ミマス「ト呼フ者アリ」)

○塚田啓太郎君 本員ノ質問ハ極ク短イノデゴザイマスカラ、此處カラ述ベルコトニシマス、此第二條ニ「本法ニ於テ砂鑛業ト稱スルハ砂鑛ノ採取及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ」此附屬スル事業ト云フコトハドウ云フコトヲ云フカ此附屬ヲ廣ク解釋スルト狹ク解釋スルトハ贊否ニ付テ大イニ疑點アル所デアリマスガ、之ヲ實質内容ヲ簡略ニ答辯ヲ願ヒタイ、ソレト二十四條、是ハ(四十二年七月一日ヨリノ)施行ス、唯其後トハ「砂鑛採取法ハ之ヲ廢止ス」トアルガ、其廢止ノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ノカ、又ハ發布ノ日ヨリ廢止ノカ、大抵之ニハ如何カ簡條ガアルモノデス、之ヲ先ヅ御尋スル

(政府委員磯部正春君登壇)

○政府委員(磯部正春君) 唯今ノ御尋ニチヨット私カラ御答申上ゲマス能ク御尋ノ要旨ガ分リマセヌデゴザイマスカラ、或ハ誤解シテ御返事申上ゲルカ知リマセヌ、其事ハ御斷リシテ置キマスガ、二條ニ付テ附屬スル事業ヲ謂フ、附屬スル事業ト云フノハ如何ナルモノヲ云フノデアアルカ、斯ウ云フ御尋デアッタト思ヒマス

○塚田啓太郎君 其通り

○政府委員(磯部正春君) 附屬スル事業ト云フノハ(說明又分ラズ「ト呼フ者アリ」)

附屬スル事業ト申シマスノハ、砂金ナリ、砂鑛ヲ採ッタモノヲ即チ精選シ、若クハ精鍊スル事業ヲ附屬スル事業ト云フテ居リマス、ソレカラシマヒノ何時カラ廢止スルカト云フ御話デゴザイマスガ、是ハ無論施行スルト同時ニ片方廢止スルノガ普通デゴザイマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

(質問終結「ト呼フ者アリ」)

○議長(長谷場純孝君) 大體ノ質問ハアリマセヌカ、質問ハ無イト認メマスカラ、日程ノ第二、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニ供シマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○大岡育造君 此案ハ登錄稅法中改正法律案ト合シテ十八名ノ委員ニ付託シタイノデアリマス、議長指名デ……

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 今ノ大岡君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ、即チ委員ヲ十八名トシ選舉ハ議長指名——其通りニ決定致シマス、日程第三登錄稅法中改正法律案ノ第一讀會

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 議案ノ朗讀ハ省カウト思ヒマスガ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 議案ノ朗讀ハ省カウト思ヒマスガ御異議アリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 議案ノ朗讀ハ省カウト思ヒマスガ御異議アリマセヌカ

第三 登錄稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

登錄稅法中改正法律案

第十五條 砂鑛業ニ關シ砂鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ

登錄稅ヲ納ムヘシ

一 砂鑛權ノ設定

新規登錄

砂鑛區合併

砂鑛區分割

砂鑛權ノ變更

二 砂鑛權ノ變更

增區

減區

但シ增區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

砂鑛權ノ移轉

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

相續

砂鑛權ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ爲シタル承諾

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

又ハ協定ニ因ル設定

六 抵當權ノ移轉

相續

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件 金五圓

七 滯納處分以外ノ原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限

每一件 金十圓

八 廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅

每一件 金十圓

九 登錄ノ更正、變更又ハ抹消

每一件 金十圓

債權金額ニ因リ課税額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

附則

本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前砂鑛採取法ニ依リ砂鑛業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲シ既ニ手數料ヲ納メタル者ハ砂鑛法ニ依リテ爲ス其ノ事項ノ登錄ニ付更ニ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要セス砂鑛法第二十七條第一項ニ依リ登錄ニ付亦同シ

〔政府委員櫻井鐵太郎君登壇〕

○政府委員(櫻井鐵太郎君) 登錄稅法中改正法律案ハ唯今議題ニナリマシタ砂鑛法ノ制定ニ伴ヒマシテ登錄稅法中改正ヲ要スル必要アリマシテ提出ニナリマシタ次第デゴザイマス、詳細ノコトハ委員會ニ於テ御質問ニ應ジテ御答申上ケルコトニ致シマス

○議長(長谷場純孝君) 別ニ御質問モ無イト見受ケマスカラ、日程第四、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第四 右議案ノ審査ヲ附託スヘキ委員ノ選舉

○議長(長谷場純孝君) 是ハ即チ先刻大岡君カラ勸請ノ出マシタ日程第二ノ十八名ノ委員ニ付託スルト云フニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) ソレデハ其通り決定致シマス、日程第五、臺灣銀行ニ於テ發行シタル一圓銀貨ヲ以テ引換フヘキ銀行券ノ引換期限ニ關スル法律案、第一讀會ノ續委員長報告 片岡直溫君

第五

臺灣銀行ニ於テ發行シタル一圓銀貨ヲ以テ引換フヘキ銀行券ノ引換期限 第一讀會ノ續(委員長)ニ關スル法律案(政府提出)

〔片岡直溫君登壇〕

○片岡直溫君 私ハ本案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、本案ハ明治三十七年七月一日ヨリ臺灣ニ於テ金貨制ヲ布キマシタメニ、從來ノ銀券ヲ處分整理致シマスルコトヲ法案デアリマス、而シテ臺灣ニ從前發行シテ居リマスルコロノ銀貨ハ金貨制ヲ布キマシタ同時ニ、即チ三十七年ノ六月末日限リ其適用ヲ禁止シテ、サウシテ時價ニ依リ引換ノコトヲ法令ヲ以テ示シタルデアリマス、而シテ此適用ハ禁止シタルデアリマスガ、四十一年十月二十七日ノ法令ヲ以テ公納ニ使用スルコトヲ許サレテアルデアリマス、イハ是ハ少シ間違ヒマシタ、公納ニ使用スルコトヲ從前許シテアッタノヲ四十一年十月二十七日ノ法令ヲ以テ公納ノタメニ使用スルコトヲ禁止シタルデアリマス、サウシテ同日ヲ以テ内地ヨリ臺灣ニ輸入スルコトモ、他方ヨリ輸入スルコトモ、

禁止シタルデアリマス、サウシテ四十一年十月二十七日ノ法令十七號ヲ以テ此圓銀引換ノコトヲ達シタルノデアリマス、此圓銀引換ハ四十二年四月三十日限リ引換ヘルコトニ達スルノデアリマス、是ガ銀貨ノ現狀デアリマス、而シテ銀券ハ一圓銀貨又ハ公定相場ニ依ッテ金貨又ハ金券ニ引換スルコトヲ三十七年律令八號ヲ以テ達シタルノデアリマス、此銀券ヲ尙四十二年十二月二十五日ノ律令ニ依リマシテ、同月三十一日限リ通用ノ禁止ヲシテ居ルノデアリマス、其適用ノ禁止ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、尙此銀券ガ唯今二萬五千圓ハカリ帳簿上ニ存シテ居ルヤウデアリマス、其二萬五千圓ノ帳簿ニ存シテ居ルモノモ實際ハ滅失毀損等ニ達スル模樣デアリマスガ、併ナガラ此儘ニ置ケバ實際限ガナイデアリマスカラ、之ヲ四十二年十二月三十一日限リ引換スルコトヲ云フナカ、此法案ノ趣旨デゴザイマス、甚ダ單純ナコトデゴザイマスガ故ニ、委員會ハ僅ニ二回ノ會ヲ開キマシテ之ヲ必要ナル法案ト認メテ出席委員滿場ノ可決ヲ致シタルデアリマス、本院ニ於キマシテモ直チニ即決アラント望ミマス

〔贊成又ハ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 委員長報告通り御異議ゴザイマセヌカ

〔委員長報告通り異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) ソレデハ委員長報告通りニ決シマス——引續キ二讀會ヲ開クヤゴザイ御諮リ致シマス

○大岡育造君 直チニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ確定セラレンコトヲ希望致シマス

〔贊成贊成ト聲起ル〕

○議長(長谷場純孝君) 唯今大岡君ヨリ直チニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ確定スルト云フ勸請ガ出マシタガ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト聲起ル〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ其通り決シマス

臺灣ニ於テ發行シタル一圓銀貨ヲ以テ引換フヘキ銀行券ノ引換ニ關スル法律案 確定讀

○議長(長谷場純孝君) 委員長報告通り御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト聲起ル〕

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ是ニテ確定致シマシタ——日程第六、渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法中改正法律案、第一讀會、議案ノ朗讀ハ省略シマス、武藤金吉君

第六 渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法中改正法律案 第一讀會

案(武藤金吉君外一名提出)

渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法中改正法律案 渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律中左ノ通改正ス 第一條中「田畑」ノ下ニ「宅地山林原野沼池」ヲ加フ

〔武藤金吉君登壇〕

○武藤金吉君 此案ハ渡良瀬川沿岸鑛毒被害地栃木縣、群馬縣、茨城縣、埼玉縣ノ四縣八郡ニ跨リマス田畑以外ノ鑛毒被害地ノ地價ノ修正ノ漏レテ居ルニ、宅地、山林、原野、沼池等ヲ加ヘルト云フ改正案デアリマス、ソレデ其法律ハ明治三十七年法律第十六號ヲ以テ渡良瀬川沿岸此四縣八郡ノ尾尾銅山ノ鑛毒ノタメニ土質

第七 衆議院議員選舉法中改正法律案(國井庫君外 第一讀會)

衆議院議員選舉法中改正法律案

第三十六條 選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選舉人一名及選舉人ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘシ

第三十六條ノ二 選舉人ニシテ文字ヲ書スル能ハサル由ヲ申立ツルトキハ投票管理者ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票簿ニ記載スヘシ

第三十八條第二項ヲ削ル

第三十九條第三項中「投票セシムヘシ」ノ下ニ「選舉人文字ヲ書スル能ハサル由ヲ申立ツルトキハ第三十六條ノ二ノ例ニ依ル」ヲ加フ

第四十六條 削除

第五十四條 開票管理者ハ郡ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日、市ニ於テハ投票ノ翌日開票立會人立會ノ上顯著順ニ依リ投票函ヲ開キ投票ノ數ト投票人ノ數トヲ計算シ最後ニ其ノ總數ヲ計算スヘシ

第五十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

開票管理者ハ開會毎ニ投票ヲ立會人ト共ニ點檢スヘシ

第五十八條第五號中「被選舉人」ノ下ニ「及選舉人」ヲ加フ

第八十九條 削除

第九十條中「又ハ被選舉人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒ」ヲ削ル

第九十六條中「第八十九條」ヲ「第九十條」ニ改ム

○議長(長谷場純孝君) 國井庫君

○國井庫君 諸君私共ノ提出致シマシタ案ハ御承知ノ通り既ニ昨年ノ第二十四議會ニ於キマシテハ大多數ヲ以テ本院ヲ通過致シマシタル議案デアリ、ソレヲ提出ノ理由ト致シマシテモ多數ノ諸君ガ既ニ御承知ノコトデゴザイマス、カラシテ殆ド前ニ改メテ説明ヲスルノ必要ガナイカヤウニ考ヘマス、ケレドモ改選ノ結果多數議員ノ諸君モ見エラレマス、コトデゴザイマス、ソレデ此選舉法ハ憲法實施ノ當初ニ於キマシテハ小選舉區、列記記名ト云フ制度ヲ取ツタデアリ、然ルニ段々實施ノ結果小選舉區ハイカナイ、列記記名ト云フコトハドウモイロ、弊害ガアル、即チ暴行デアルトカ、脅迫デアルトカ、或ハ地方富豪ノ勢力ノタメニ選舉人ノ意思ノ自由ヲ妨グルノ嫌ガアルノデアリ、ソレデ之ヲモ併セテ改正ヲ致シマシテ、無記名ニ致ス方宜イト云フノ趣旨カラシテ中途ニシテ現行ノ所謂無記名制度ニ相成リマシタノデゴザイマス、而シテ此無記名制ヲ實施致シマシタル結果ハドウデアラウカト云フコトヲ熟ニ調査致シマス、最初改正ノ當初ニ於キマシテ選舉人ノ意思ノ自由ヲ擁護致シマシテ、サウシテ此選舉ト云フモノヲ極メテ合理的、神聖ニシテ國民ノ意思ヲ發揮セシメヤウト云フヤウナコトガ、豫期ニ反シテ一層非常ナル弊害ガ之レニ伴フテ續出スルコトニナリマシタノデゴザイマス、法律ノ希望致シマシタル所ノ大切ナル目的ハ少シモ發揮致シマセヌデ、却テ法律ノ豫想致シマセヌ所ノ他ノ方面ニ向ツテ、毒害ヲ流ス結果ニ陷ツタデアリマス、一口ニ申セバ今日ノ選舉ノ結果ハ

ヲ惡變シタモノヲ地價修正ヲスル、サウシテ此地租ノ均衡ヲ保ツタメニ此法律ヲ發布セラレタモノデアリマス、然ルニ以上申シマシタ宅地、山林、原野等ガ是ニ加ツテ居リマセヌカラ、此田畑ト云フ下ニ此宅地、山林、原野ヲ加ヘルト云フ改正ノ法律案デアリマス、サウシテ其法律案ハ一等カラ十等ニ鑛毒被害ノ狀況厚薄ニ依リマシテ、一等、八割、十等、一割五分ト云フ標準デ地價ノ修正ガ出來テ居ルノデアリマス、サウシテ是等ノ段別ハ郡村宅地ニ於キマシテ七百五十町二段二畝十三步、市街宅地ニ於キマシテ七百四十町二段二畝十三步、平野ニ於キマシテ二千二百六十六町一段四畝七步、雜種地ニ於キマシテ十一町二段三畝七步、是等ハ何レモ地價ノ最モ廉イ處デアリマス、總テ收穫ニ關係ガアリ、居住ニ關係ガアリ、衛生ニ關係ガアリ、總テノ方面ニ於テ同ジク被害ヲ受ケテ居リマスモノデアリマス、此法律ノ均衡ヲ均霑ニ浴スルコト云フコトハ勿論デアリ、殊ニ此地租ノ公平ヲ保ツト云フ上ニ於テハ當然加フベキモノト思フノデアリマス、而シテ當議院ニ於キマシテハ二十二議會以來毎會滿場一致ヲ以テ御贊成ヲ得テ、サウシテ貴族院ノ方ニ送附ニナリマシテ未ダ此解決ヲ得ルコトガ出來ヌデアリマス、何卒當議會ニ於キマシテハ滿場一致デ審查御協贊アツテ、此目的ヲ達スルヤウニ切望致シマス

○佐野春五君 唯今ノ議案ノ提出者ニ質問致シマス、唯今御質問ニ依リマシテ(笑聲起ル)説明ニ依リマシテ、宅地沼池等ニ損害ガ及ブト云フコトニ付テノ理由ガ解セラレヌデアリマス、現行ノ法律ニ依リマシテ銅分ノタメニ收穫ガ減ズルト云フコトニ依ツテ田畑ノ地價ト云フモノヲ修正スルト云フコトニナツテ居ル、本員ノ如キ地方ノ事情ヲ知ラナイモノニ於テハ宅地或ハ沼池ノ如キモノガ如何ナル譯デ銅分ノタメニ地價ガ變ズル結果、地價ヲ修正シナケレバナラヌカト云フコトヲ解シ兼ネル、尙普通ノ場合ニハ沼池等ハ地價ガ附セラレナイコトデアラウト思フ、此八郡ノ地方ハ地價ガ附シテアルカ、説明ヲ願ヒマス

○武藤金吉君 唯今ノ質問ノ御答ヲ致シマス、銅分ノタメニ地價ヲ惡變シタト云フコトニ付キマシテ、沼池ニハ被害ガナイト云フ御疑ガアリマス、沼池等ハ魚族ガ生産ヲシテ居リマスモノガ、是ハ生産ヲ致シマセヌカラ同被被害ヲ受ケテ居ル、又土壤ヲ分析シタ上ニ原野、雜種地等ニ段ガ生ヘマスノガ、是等ガ生ヘマセヌカラ、收穫ガ減ジマシタ、殊ニ地價ガナイト云フコトハナイ、地價ハ何レモアリマス、是等ハ被害地ノ實情ヲ御存ジナイト思ヒマス、尙ホ明細ノ説明ヲナスコトニ材料モゴザイマス、大切ナ議會デアリマス、カラ時間ヲ要スルコトヲ憚リマシテ、説明ヲ簡略ニ致シタデアリマス、左様御心配ハナイデアリマス

○大岡育造君 本案ハ尙十分ニ審查スル必要ガアラウト存ジマス、九名ノ委員ヲ設ケ、議長指名ノ委員ニ付託シタイト思ヒマス

(贊成々々ノ聲起ル)

○議長(長谷場純孝君) 議長指名九名ノ委員ニ付託スルト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 其通り決シマス——日程第七、衆議院議員選舉法中改正法律案、國井庫君外一名提出第一讀會——議案ノ朗讀ヲ省略致シマシテ、御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

第八 衆議院議員選舉法中改正法律案花井卓藏君外 第一讀會

衆議院議員選舉法中改正法律案
衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス
第十一條第四號ヲ削ル

○ト部喜太郎君 簡單デアリマスカラ、此席カラ提出ノ理由ヲ述ベマス、本案ハ選舉法ノ第十一條ニ左ニ掲クルモノハ選舉權及被選舉權ヲ有セストアツテ、其四ニ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其裁判確定スルニ至ル迄ノ者トアル此四項ヲ全然削除シタイデアリマス、理由トシテハ書イデアリマス通り、法律ノ原則ヨリ重シクノデ、犯罪ノ嫌疑ヲ受ケテ刑ノ訴追ヲ受ケテ、刑ノ宣告ヲ受ケテモ、其裁判ノ確定シナイ中ハ無罪ガ當然デアリマス、然ルニ未ダ裁判確定セザルモノニ選舉權被選舉權ヲ有セシメズ、又當選シタ者ガ偶、刑事ノ訴追ヲ受ケテ、第一審ニ於テ、第二審ニ於テ、有罪ノ宣告ヲ受ケテモ裁判ノ確定セザルニ、直ニ當選者ノ資格ヲ奪フト云フハ、法律ノ原則ニ背イテ居ルト云フ趣意ヲ提出シタデアリマス、又斯様ノ規定ノアルトメニ往々ニシテ政略上ノ意味ヲ含メタコロノ刑事ノ訴追ヲ受ケル虞ノアルコトハ私ガ喋々申スマデモナイコトデアリマス、右様ノ次第ヲ本案ヲ提出シタ譯デアリマス

○大岡育造君 本案モ前ノ委員ニ付シタト同ジ様ナ性質ノ案デアリマスカラ、篤ト審查スルタメニ前ノ委員ニ付シタイト思フ

〔贊成ト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 前ノ同一委員ニ此案ヲ付託シタイト云フ 大岡君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

○議長(長谷場純孝君) 其通り決定シマス、日程第九、府縣制中改正法律案渡邊千冬君提出第一讀會、御諮リヲ致シマスガ、第十モ郡制中改正法律案渡邊千冬君提出此二ツノ案ハ提出者ガ同一人デアリマスカラ、説明モ同時ニシテサウシテ、一括シテ議事ニ付シタイト思ヒマスガ、御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

第九 府縣制中改正法律案(渡邊千冬君提出) 第一讀會
第十 郡制中改正法律案(渡邊千冬君提出) 第一讀會

府縣制中改正法律案
第六條第二項ヲ左ノ如ク改ム
帝國臣民タル男子年齡滿二十五年以上ニシテ二年以來其ノ府縣内ニ住所ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス

同條第六項ヲ左ノ如ク改ム
左ニ掲クル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス
一 禁治產者及準禁治產者
二 家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定ニ至ル迄ノ者
三 無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

選舉ヲスルノデナク、選舉權ヲ賣買スルノデ、一歩進ンデ申シマスレバ地方ノ狀況ニモ依リマスガ選舉權ヲ合理的ニ行使シナイバカリデナク、選舉權ニ依リ詐欺ヲ公然ヤルコトト何トモ思ハヌ地方モ屢耳ニスルデアリマス、ソレデ到底此儘ニシテ置イテハ選舉界政治界ノ腐敗ヲ防禦スルコトガ出來ナイ、益、政治界ヲ墮落セシムルニ至リ、國家前途ノタメ、政治界ノタメ、慨嘆ニ堪ヘヌト考ヘタデアリマス、ソレデ此弊ヲ矯ムルニハ此無記名制ヲ廢シテ、元ノ記名制ヲ採用スレバ確ニ此弊ノ防禦ガ出來ルト確信スルデアリマス、何トナレバ成程今日ノ政治界ハ實ニ腐敗ノ極點ニ達シテ居ルヤウアルガ併シ國民ノ腦髓ニハ一ノ廉恥心、道德觀念ガ殘ッテ居ルニ相違ナイ、其道德觀念廉恥心ヲ利用シテ之ヲ記名制度ニ致シマスレバ、選舉界政治界ノ開苦シイ賄賂や、詐欺ノ行ハル、ト云フコトヲ殆ド防遏スルコトガ出來ルト確信致シマス、之ヲ記名制ニ致シタラバ、之ニ伴フ弊ガ起リハシナイカト云フ論ガアルヤウデスガ、併シ記名制ニ伴フ弊ハ、第一記名制ナル故ツレニ限ッテ起ル弊ハ、暴行脅迫ガ第一、第二ニ地方ノ富豪其他德望家等ノタメ動カサル、コトガアルト云フニ過ギヌ、所ガ此暴行脅迫ノ問題ニ付キマシテハ、先キニ記名制ヲ施行シタ當時ノ狀況ト、今日ノ社會ノ狀況トハ大ニ違フデアル、其當時ニハ御承知ノ如ク壯士ト云フ無賴極マル暴行者ガ天下ヲ横行シタ、所ガ今日ニハ斯カル者ハ其影ヲ隱シ都鄙共ニ其聲ヲ聞カヌデアリマスソレデ此弊害ノ最モ起リ易イ政治的ノ無賴漢壯士ガ居ナクナツタデアルカラ、暴行脅迫ノ關係ニ於ケル弊害ハ決シテ昔日ノヤウナ驚クベキモノハナイト確信スル、又第二ニ地方ノ富豪其他ノ勢力ノ影響ノ如キニ至ッテハ、之ハ記名制ニ致シマシテモ無記名制ニ致シマシテモ、少シモ變ルコトハナイノミナラズ、富豪ノ勢力モ他ノ知識德望ノ勢力ト同様に、是等ニ依ッテ社會ヲ組織サレテ居ル限リハ到底免レヌ影響デアツテ、決シテ選舉ニ限ッテモノデハナイ、又或ル一面カラ申シマスレバ、是アルヨリ社會ノ秩序ノ立ツ所以デアルカモ知レナイデアリマス、從ッテ此弊ハ決シテ恐ルベキモノデナイト思ヒマス、ソレカラ最後ニ研究セラレ從來問題トナツテ居ツタノハ、ドウ云フモノデアルカト云フト、記名制ヲ採用スレバ賄賂ノ結果ヲ確實ナラシムル嫌ガアルト云フコトデ、此議論ハ昨年ノ議會ニモ反對論者ガ唱ヘタ說デアリマスガ、併ナカシ之ハ私ノ提出シタ改正案ニ對シテハ他ノ所謂側面ノ問題デ、私ノ案ハ國民ノ廉恥心、道德觀念等ヲ利用シテ、賄賂ノ行ハルヲ防禦シヤウト云フデ、既ニ賄賂ノ行ハレタ後ノ結果ガ確實デアルトカ、不確實デアルトカ云フコトニ付テ、末ノ詮議ヲスル趣旨デアナイデアリマス、賄賂ノ行ハレヌト云フ前提ニ於テ防禦シヤウト云フデ、此案ノ目的デアリマスカラ、之トワレトワ 混同シテ論ズベキモノデハナイト思ヒマス、斯様ノ次第デアリマスカラ本案ハヤハリ前議會通り滿場一致テ御贊成アランコトヲ希望致シマス

○大岡育造君 本案篤ト調査スルタメ十八名ノ委員ニ付託致シタト、サウシテ選舉ハ議長ノ指名ニ願ヒマス

〔贊成々々ト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 大岡君ノ動議ノ通り十八名ノ議長指名ノ委員ニ附託スルコトニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 其通り決シマス、次ハ日程第八衆議院議員選舉法中改正法律案花井卓藏君外一名提出第一讀會、讀會ハ省略シマス

四 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

五 租稅滯納處分中ノ者

六 公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者

七 陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者若ハ戰時事變ニ際シ召集中ノ者

八 官立公立私立學校ノ學生生徒

九 其ノ府縣ノ官吏及有給吏員

十 檢察警察官吏及收稅官吏

十一 神官僧侶其ノ他諸宗教師

十二 小學校教員

同條第六項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
前項第九號以下ノ者ハ其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサルコトキ亦同

同條第七項ヲ左ノ如ク改ム

本條第六項第九號以下ニ掲ケタル以外ノ官吏ニシテ府縣會議員ニ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三十一條第六項中「第六條第七項」ヲ「第六條第八項」ニ改ム

郡制中改正法律案

郡制中左ノ通改正ス

第六條第二項ヲ左ノ如ク改ム

帝國臣民タル男子年滿二十五年以上ニシテ二年以來其ノ郡内ニ住所ヲ有シ且其ノ郡内ニ於テ一年以來直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者ハ郡會議員ノ被選舉權ヲ有ス

同條第六項ヲ左ノ如ク改ム

左ニ掲ケル者ハ郡會議員ノ被選舉權ヲ有セス

一 禁治產者及準禁治產者

二 家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定ニ至ル迄ノ者

三 無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

四 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

五 租稅滯納處分中ノ者

六 公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者

七 陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者若ハ戰時事變ニ際シ召集中ノ者

八 官立公立私立學校ノ學生生徒

九 其ノ郡ノ官吏及有給吏員

十 檢察警察官吏及收稅官吏

十一 神官僧侶其ノ他諸宗教師

十二 小學校教員

十三

同條第六項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
前項第九號以下ノ者ハ其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサルコトキ亦同

同條第七項ヲ左ノ如ク改ム

本條第六項第九號以下ニ掲ケタル以外ノ官吏ニシテ郡會議員ニ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條第六項中「第六條第七項」ヲ「第六條第八項」ニ改ム

〇議長(長谷場純孝君) 渡邊千冬君

(渡邊千冬君登壇)

〇渡邊千冬君 諸君、私ハ府縣制中改正法律案及郡制中改正法律案ノ提出者デアリマス。極ク簡單ニ提出ノ理由ヲ述ベタイト思ヒマス。此改正案ヲ提出致シマシタルニ付テハ、法律上ノ理由モ亦實際上下ノ目的モアルデアリマス。其根本トスルトコロノ精神ハ即チ現行法ニ於キマシテハ、唯今ト部君カラ申述ベラレマシタル衆議院議員選舉法ト稍似テ居ルトコロノ精神ニ依テ立法セラレテ居リマシテ、未ダ刑ガ確定セザルニ先チテ、剝奪公權又ハ停止公權ヲ附加セラルベキ重罪輕罪ノ公判ニ附セラルレバ、直チニ府縣會議員ハ失格スルデアリマス。此事ハ甚ダ不當ナルコトデアリマス。是ニハ各條項ニ依テ其弊ヲ救ハウトスルガ、提出ノ重ナル精神デアリマス。是ニハ各條項ニ依リマシテハ細カイ理由ハ澤山アルデアリマス。其最モ重ナル理由ハ前ノ議事日程ニ載ッテ居リマシタルコト改正案ト同ジク一ハ刑法上ノ理由ニ基イテ居ルデアリマス、即チ我國ノ法制ニ於テハ不當ニ被告ノ地位ヲ壓迫シテ居ル傾キガ現レテ居ル、是ハ獨リ衆議院議員選舉法ノミナラズ、又府縣別ノミナラズ、其他ノ法律ニモ現ハレテ居ルデアリマス。被告ト云フモノハ裁判確定マデハ決シテ壓迫スベキモノデナイ、決シテ之ヲ罪人視スベキモノデナイト云フコトハ、今更私ガ申上ゲルマデモナク、進歩シタル刑法ノ思想ニ於テハ、世界總テノ人ニ認メラレテ居ルトコロデアリマス。又人ニ嫌疑ヲ掛ケルト云フモノハ、疑ハレル者ノ非カ、疑フ者ノ非カ、是モ容易ニ判定スベカラザルコトデアリマシテ、我國ノ裁判官ガ今日國家ニ於テ最モ優待セラレザルトコロノ地位ニ居ルト云フコトハ、明カナル事實デアリマス。私ハ此事實ヲ以テ直チニ我國ノ裁判官ノ信任ヲ問フモノデアリマセズ、併ナガラ私ガ僅ニ唯今マデ調ベ得タルコトヲ統計ニ依リテ見マシレバ、明治四十一年ノ一月カラ十二月マデノ間ニ於キマシテ府縣會議員ノ犯罪ト認メラレテ、公判以上ノ裁判ニ回サレタモノガ五十六人アリマス。其五十六人中殆ド其半數ニ達シテ居ルトコロノ二十四人ハ結局無罪ノ判決ヲ受ケタニモ拘ハラズ、府縣會議員ノ資格ヲ失ッテ居ルデアリマス。是ハ實ニ吾ガ見通スコトノ出來ナイトコロノ重大ナル事實デアリト思フ、是ハ私ガ議論ヲ致スヨリ此數字ガ最モ此改正法律案ノ理由アルコトヲ諸君ニ申上ゲル次第デアラウト思ヒマス。又行政上ノ理由モアルデアリマシケレドモ、ソレハ唯今ト部君カラ最モ簡潔ナ御話ガアリマシタガ、私モ同様ナ者ヲ持ッテ居リマシテ、若シ地方ノ行政官或ハ警察官吏ガ誤ッテ地方黨爭ノ渦中ニ身ヲ投ジ、或ル種ノ權力ニ阿諛センガタメニ、自分ノ地位ヲ濫用シタナラバ、此現在行ハレテ居ルトコロノ府縣及郡制ニ云フモノハ、非常ナル危害ヲ自治制ノ上ニ及ボスデアリマス。元來自治制ノ制度ト云フモノハ今日ノ自治制ノ制度ト云フモノハ、成ルベク多數ノ者ガ自治行政ニ直接ニ當ルトコロヲ、目的トシテ、此府縣及郡會ト云フガ如キ議決機關ヲ設ケテ居ルニ拘ハラズ、若シ不幸ニシテ是等ノ重大ナルトコロノ、即チ自治制度ノ根本デアルトコロノ地方議決機關ニ三三界劣ナル行政官吏ノタメニ蹂躪サレ去ツタナラバ、實ニ是ハ慨嘆スベキコトデアラウト思フデアリマス。其他立法上ノ理由モ多クアルデアリマス。其最モ重要ナルモノヲ申上

ゲマスレバ現行法ハ此點ニ於テ甚ダ統一ヲ缺イテ居ルノデアリマス、先ヅ貴族院ニ於ケル伯子男爵議員選舉規則ヲ見マス、ト云フ、刑事ノ訴ヲ受ケ拘留ニナレバ、忽チ選舉被選舉ノ資格ヲ失フシマフデアリマス、是ハ最モ古イ思想デ、未ダ公判ニ附セラル、ニ至ラズ、又未ダ豫審ニ附セラル、刑事ノ訴ヲ受ケ拘留セラレバ、直チニ資格ヲ失フシマフデアリマス、又貴族院ニ於テ選舉規則ヲ見マス、次ニ我國ノ改正セラル、前ノ市町村制ニ依リマス、市町村制ハ豫審ニ附セラレバ直チニ資格ヲ失フシマフデアリマス、今ノ現行法ニ於テハ公判ニ附セラレバ、資格ヲ失フシマフデアリマス、行ノ市町村制ニ於テハ三段ノ進歩ヲ爲シテ居ルノデアリマス、衆議院議員ノ選舉法ノ規則ニ依レバ、尙ツレニ一段ノ進歩ヲ爲シテ居ル、第一審ノ判決ヲ受ケテ、初メテ失格スルコトニナツテ居ル、是等ノ階段ト云フモノハ實ニ刑法ノ思想ノ進歩ト伴フテ來タモノト見ナケレバナラヌデアリマス、然ラザレバ何故ニ我國ニハ斯ノ如ク統一シナイコトノ幾多ノ法制が存在シテ居ルカト云フコトヲ説明スルコトが出来ナシ、先ヅ是等が主ナル私ノ申上ケル所ヲ提出ノ理由デアリマス、其他此問題ノ甚ダ重大デアラルト云フコトハ、私が申上ケルモノナク、多數ノ諸君、地方ノ自治體ニ直接ノ關係ヲ持ツテ居ラル、トコロノ諸君ハ御承知ノコトデアラウト思ヒマス、是等提出ノ理由ヲ申上ケルコトハ終リニ致シマス、ドウゾ諸君ノ御協賛ニ依ツテ此問題ト云フモノが一日モ早ク實行セラレデ、我邦ノ自治體、基礎ト云フモノが固クナラシコトヲ切ニ希望スルノデアリマス

(拍手スル者アリ)

○大岡育造君 此議案モ議長指名十八名ノ委員ニ附託シタイノデアリマス
○議長(長谷川純孝君) 今大岡君ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷川純孝君) ツレバ選舉ハ議長指名十八名ノ委員ニ附託ト云フコトニ決定致シマス、議事日程ノ第十一、工作物保護ニ關スル法律案、高木益太郎君外一名提出第一讀會議案ノ朗讀ハ省略致シマス 高木益太郎君

第十一 工作物保護ニ關スル法律案(高木益太郎君外 第一讀會)

工作物保護ニ關スル法律案
地上權又ハ土地賃借權ニ因リ工作物ヲ有スル者ハ登記ナシト雖其ノ事實ヲ知リタル第三者ニ對抗スルコトヲ得

(高木益太郎君登壇)

○高木益太郎君 他人ノ地所ニ於ケル工作物保護ニ關スル法律案、是ハ世ニ所謂地震賣買ト云フモノヲ如何ニセバ防禦ヲ爲スコトが出来ルカ、此問題ニ付キマシテ全ク此法文ノ起草ト云フコトニ付テハ甚ダ知識ノ淺薄ナルトコロノ私が茲ニ地上權又ハ土地賃借權ニ因リ工作物ヲ有スル者ハ登記ナシト雖其ノ事實ヲ知リタル權利取得者ニ對抗スルコトヲ得ト、斯ウ云フ法律案ヲ提出致シマス、右ノ次第デアリマス、カラス、十分ニ御審議ヲ煩ハシタイノデアリマス、是ハ如何ナル所ニ關係ヲ持ツカト申シマス、皆サシノ御承知ノ如ク民法ノ第七十七條ニ不動產ニ關スル權利ノ得受又ハ變更ハ登記法ニ依リ登記ヲ爲スニアラサレバ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヌト云フ條ガアリマス、モウ一口ハ賃借ノ規定デ、第六百五條ニ不動產ノ賃借借主ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其ノ不動產ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテ其效力ヲ生ス、此條文ト云フモノが二ツアリマス、此條文ニ對シテ例外法ト云フモノ一ツ作りタイノ此法案ノ精神デアリマス、此案ニ付キマシテハ實ハ地震賣買ト云フモノヲ司法權ノ保護ニ依リ救済シタイト云フノデ、段々辯護士諸君モ餘程骨折ラレタデアリマス、是ニ於テ已ムヲ得ズ、此立法上ノ働ニ依ツテ保護ヲ舉ゲタイト云フノデ、此案ヲ出シタイノデアリマス、

是ハ都市ノ盛衰、産業ノ興廢、國家ノ經濟ニ重要ナル關係ヲ持ツ案デアリマス、實ニ其影響スルコトコト云フモノハ大キイコト、考ヘマス、民法ノ實施前ニ於キマシテハ大審院ノ判例ニ依ツテ地主ガ變リマシテモ、借地人ハ後ノ新地主ニ向ツテ借地權ト云フモノヲ對抗スルコトが出来タト云フモノハ、諸君モ御承知ノ通りデアリマス、然ルニ此民法ガ實施シナリマシテ以來ト云フモノハ、現ニ借地人ノ建物ガ地主ノ有シテ居ルコトコロノ地上ニ存シテ在リ且ツ建物登記簿ニ其建物ノ權又ハ賃借權ノ登記ヲ致シマセヌケレバ、地主ノ承諾ヲ經テ地主ト連印ヲ以テ地上權又ハ賃借權ノ登記ヲ致シマセヌケレバ、第三者タル即チ新シク地面ヲ買ツテ參リマシタル者ニ向ツテ予ハ借地權ガアルト云フコトヲ對抗スルコトが出来ナク、地面ノ買ツテ參リマシタル者ハ反對論者殊ニ此民法起草委員ノ諸君ハツレハ民法ニ於テ保護ノ途ガアルデハナイカ、何デアルコト云フニ、本登記ト云フ方法ガアルト、斯ウ云フ論デアリマス、此地主ガ登記ヲスルコトニナリマス、土地ノ賣買價格ニ影響スルコト云フヤウナ考ヲ以チマシテ、極ク正シイ地主デアラバ承諾ヲスルハモアリマス、甚ダ困難デアルノデアリマス、若シ急ヤカマシク之ヲ請求シテ裁判上請求モシヤウト云フコトニナリマス、翌日ハ直ニ他人ハ此地面ノ名義ト云フモノヲ切換ヘマシテ如何ニ三百年來營業シテ居ルコトコロノ居住家屋デモ三階四階ノ立派な煉瓦屋デアリマシテモ、唯地主ガ名義ヲ他ニ切換ヘサスレバ、多數ノ借地人ト云フモノハ翌日ハ其土地ヲ明ケナケレバナラヌ、何等ノ容赦會釋ナク明ケナケレバナラヌト云フヤウナ今日ハ狀態デアルノデアリマス、是ハ單ニ東京市ハカリノ問題デハ決シテアリマセヌ、近頃ハ大阪ニモ此地震賣買ナルモノガ起リ、神戸ニモ是ガ起リタト云フノデアリマス、實ニ此戰捷國ノ一等國タルトコロノ首府ガ此地震賣買ノタメニ非常ナル被害ヲ被ツテ居ルノデアル、此影響ト云フモノハ所謂惡事千里ヲ走ルト云フノデアリマス、此論法ヲ以テトウノ村落ニ向ツテモ亦及ボスト云フヤウナ影響ガアルト私ハ信ジマス、之ニ付テハ實際上ノ事情ヲ訴ヘナケレバナラヌ、民法起草委員ノ說ハ非常ニ理窟ニ偏スルコトデアリマス、實際上地震賣買ノ被害ガアルト云フコトヲ統計ニ依ツテ調ベテ見マス、明治三十九年カラ四十一年ハ地震賣買ハ一番少ナク統計ニ依ツテ見マス、其少ナク統計ニ依ツテ見マス、明渡ノ事件ト云フモノハ東京地方裁判所ダケデ三百九十二件アリマス、若シ是ガ一軒ノ家が一万圓ノ價アル家デアラバ、三百九十二萬圓ト云フモノハ建物ダケ損ラシテ居ル、其他東京區裁判所ノ地震賣買ト云フモノハ調査中デアリマス、ヒドイ話デス、此家屋ラマルデ打壞ハシテシマフ、即チ地所ヲ明渡ノ事件ガ三百九十二件デ、ツレカラ家屋ノ明渡ハドノ位アルカト云フ三百一十七件デス、家屋ノ明渡ガ少ナクシテ却ツテ地所ノ明渡ガ統計上其倍額以上アルノデアリマス、ソコデ此問題ニ付テハ借地人ノ方カラシテ成程登記ハシナカッタケレドモドウカ移轉料ヲ費ヒタイト云フコトヲ地主ハ請求ヲシマス、此移轉料ノ習慣ト云フモノハ公用土地收用法又ハ市區改正規則ニ依テ明渡ヲ請求スル場合ニ於テモ移轉料ヲ拂フデアリマス、況ヤ個人ノ利益ノタメニ明渡ヲスル場合デアラバ、移轉料ヲ費ヒタイト云フコトヲ請求スル、東京地方裁判所ハツレハ地主ノ惠恩デアル、權利判ハナイト云フノデ、借地人ノ請求ヲ却下シテ居ルノデアリマス、ツレカラ又大阪地方裁判所ノ裁判例ヲ見マス、例ヘバ十年前ナリ十五年ナリト云フ借地期限內ニ地主ノ方ガ故意ニ其破ツテ損害ヲシマシテ、ツレガタメニ借地人ガ新地主カラ土地明渡ノ請求ヲ受ケテ、其破ツテ損害ニ付テ前ノ地主ニ向ツテ損害賠償ノ請求ヲシヤウトシテモ、大阪ノ地方裁判所ハ却下シテ居ルノデアリマス、勿論是等ノ判決例ト云フモノハ學理ノ上カラ云ヘバ非難スベキ點モアルデアリマセウガ、免三角現在司法部ノ勸キト云フモノハ此點ニ於テ何等ノ保護ト云フモノヲ與ヘテ居ラヌ、ツレナラバ民法ノ起草委員ノ諸君ハ假登記ト云フ規定ガアルデハナイカ、斯ウ云フ論ヲ提出セラ

手方トシテ不動産ノ存在スル管轄裁判所ニ申請シナケレバナラヌ、サウシテ判事が假登
記ノ決定ヲスル、其決定書ト云フモノヲ執達吏ヲ以テ地主ニ送達シナケレバナラヌデ
アリマス、サウ云フ事柄ト云フモノハ殆ド三百代言デモナケレバ出來ナイ、思切ッタ仕事
デ、激迫ナル不穩當ナル仕事アリマス、斯ウ云フ事柄ヲシテ來ナレバ、自分ノ借地
權ト云フモノヲ保存スルコトが出来ナイト云フモノハ、民法ノ起草委員が懷イ借地
權ト云フモノハ、實ニ是ハ酷イ話デアッデ、一般ノ順長ナル借地人ノ習慣ニ反スルモノデア
ル、東京ニ於ケルコトコロノ借地人ト云フモノハ、益ト暮ニナルト、地主ノ處ヘ三益白ノ砂糖
袋カ何カラ持ッテ行ッテ、サウシテ地主ノ御機嫌ヲ伺フト云フ習慣ノ状態アル、此間ノ關
係ト云フモノハ頗ル圓滿ナル關係ニナッテ居ル、然レニ其地主ノ相手ニシテ執達吏ヲ以テ
決定書ヲ送達シナケレバ借地權ヲ保存スルコトが出来ナイト云フモノハ、如何ニモ實際ニ
當該ラヌ立法デアルト信ズル、ソレデアリマスカラドウシテモ順長ナルコトコロノ借地人ハ遠
慮ヲシテ假登記ヲシナイ、假登記ヲシナイト、ドウデアアルカト云フト、地震賣買ニ遭フ、已
ムヲ得ズシテ又強テ之ヲ遣ラウト思フト云フト、地主ハドウモ續ニ障ル借地人デアアルカ
ト云フテ翌日ハ二倍ニ倍ノ地代増額ヲ請求スルト云フモノハ具合デアリマス、此間ニ
於ケルコトコロノ衝突ト云フモノハ實ニヒドイデアリマス、是ニ付テ民法ノ起草委員諸氏
ハ此登記ト云フモノヲ神聖侵スベカラザルモノ、如ク考ヘテ居リマスケレドモ、自分等ノ考
ニ依リマス、抵當權ト云フモノハ無形ノ占有ノ事實ノナイモノデアッタナラバ、他人カラ
見テハ分ラヌデアリマスガ、此借地權ハ現在借リタ地面ノ中ニ土藏ナリ、木造ナリノ工
作物ト云フモノガアルデアリマス、地面ヲ見ナイテ買フ人ハナイデアリマスカラ、此買
テ來ル人ハ此地面ノ上ニ借地權ガアルカナイカト云フコトハ現物ヲ見レバ直グ分ル、占有
シテ居ル事實ト云フモノハ登記以上ノ働ヲシテ居ルノデアル、其場合ニ尙登記ヲシナケレ
バ此借地權ハ保護シナイ、地面ガ第三者ニ移ルト翌日ハ其家ヲ壞ハシテシマハナケレバ
ナラヌト云フヤウナ實ニ今日アッテ明日ナイト云フヤウナ、借地權ノ現狀ト云フモノハ保護
ヲ與ヘテ遣ラナケレバナラヌ次第ト考ヘマス、ソレ故ニ私ハ此案ニ付テハ政策上裁断上ノ
問題ノミナラズ、社會經濟ノ上カラ見マシテモ餘程一ツ御審議ヲ煩ハサナケレバナラヌト
考ヘマスカラ、ドウ御協賛アラシメコトヲ願ヒタイデアリマス(拍手起ル)

○大岡育造君 本案ハ重大ナ事件デ調査ヲ要スルコトデアリマスカラ、十八名ノ委員
ニ附託シタイ議長指名
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)
○議長(長谷場純孝君) 今ノ大岡君ノ動議ノ通、十八名ノ委員議長指名ト云フコ
トニ御異議アリマセヌカ
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)
○議長(長谷場純孝君) 其通決シマス——第十二ヨリ第十四マデハ世ニ所謂三稅
廢止案デ、提出者モ同一議員デアリマスカラ、此案ハ一括シテ議題ニ附シテ、其說明モ
同時ニシタイト云フコトヲ提出者カラ請求シテアリマスガ、御異議アリマセヌカ
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)
○議長(長谷場純孝君) ソレデハ第十二ヨリ第十四マデハ一括シテ説明ヲシマス、朗
讀ハ省略シマス——島田三郎君

第十二 非常特別稅法中改正法律案(島田三郎君外 第一讀會
五名提出)
第十三 非常特別稅法中改正法律案(島田三郎君外 第一讀會
五名提出)
第十四 鹽專賣法廢止法律案(島田三郎君外五名提 第一讀會
出)

非常特別稅法中改正法律案
非常特別稅法中通行稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附則
本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
非常特別稅法中改正法律案
非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス
附則
本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
鹽專賣法廢止法律案
附則
本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○島田三郎君 諸君、本員ハ此重大ノ關係アルトコロノ三種ノ議案ヲ同志ノ諸君ト
共ニ提出致シマス、是ハ本來申シマスレバ各別ニ各、詳シキトコロノ提出者ガ說明
ヲ致スベキ譯デアリマスガ、併ナガラ是ハ從來ノ宿題デアリマシテ、サウシテ其趣意ハ說明
ヲ待タズ如何ニモ明白デアレ唯今議長ガ所謂三稅ト謂ハレタノ直チニ其意味ヲ理解セラ
ル、程明白ナルモノデアリマス、ソレ故ニ說明ノ便利ヲ圖リマシテ、時ヲ省カンガタメニ之
ヲ一括致シテ續キテ他ノ同志ノ御方ニ代リマシテ順次ニ說明ヲ致シマス、努メテ
之ヲ簡略ニ致サント云フコトガ志デアリマス、ソレハ此案ヲ輕ンズルガタメハナイデア
リマス、案ノ理由ガ明白デアアルガタメニ說明ノ必要ヲ深ク感シタイノデ、更ニ是ニ付テ其關
係大ケハ併シ申サナケレバナラヌト思ッテ居リマス、是ハ今同ニ於テ既ニ三回此議案ヲ提
出致シマス、昨年モヤハリ此議案上デ此稅ノ不可ナルコトヲ論ジタ次第デアリマシテ、
サウシテ如何ナル名ヲ以テ此三種ノ稅ガ世ノ中ニ理解サレテアルカト思ヒマス、惡
稅——惡稅ト云ヘバ直チニ通行稅デアリ、織物稅デアリ、鹽專賣法デアルト、斯樣
ニ世ノ中ニ理解セラル、ニ至ッテ、之ヲ一日モ存シ置クベカラザルト云フ性質ハ、既ニ其
名稱並ニ世ノ中ノ與ヘタルトコロノ此種名ガ證據立テ、居ルト本員ハ思フデアリマス、
案ハ諸君ノ御手許ヘ配付シテアリマシテ議長モヤハリ此事情ヲ察シテ朗讀ヲ省カレタ位
デアリマス、併ナガラ茲ニ一ツノ說明ヲ要スルモノガアルデアリマス、ソレハ何デアルカト
云ヒマス、前ニ概略申シマシタル通、名稱ニ依ッテ惡稅タルコトハ普ク世ノ中ガ承認
シテ居リマスガ、唯承認セザルコトコロノモノハ政府ノ側デアリマス、此政府モ亦惡稅ナルコト
ヲ非認スル程ノ勇氣ハナイデアリマス、ソレ故ニ政府ガ之ヲ拒ムコトコロノ口實ハ何デア
ルカト云ヒマス、之ヲ廢スルト云フト茲ニ收入ノ缺陷ヲ生ズル、收入ノ缺陷ヲ生ジテ填
補スルトコロノ他ノ稅源——是ニ代ルベキコトコロノ財源ノナイ間ハ之ヲ止メルコトハ出來
ナイ、斯ウ云フデアリマスガ此場合ニ於テハ惡稅ト云フコトヲ說明スルノ必要ヨリ寧ロ
要點ハ此財源如何ト云フコトガ問題デアリマス、決シテ本員ハ詭辯ヲ弄スルニアラズシ
テ、眞實ニ信ズルデアリマス、併ナガラ更ニ此意味ヲ廣ク論ジテ見マス、ソレト云フ
是ハ稅ノ問題ト申サンヨリハ現政府ノ信用有無ノ問題ナリト本員ハ思フテ居リマス、若
シ政府ガ惡稅ナリト云フコトノ國民ノ聲ヲ深ク信ジテ、サウシテ此財源ヲ誠實ニ見出サ
ント云ウダケノ心配ヲセラレタナラバ、決シテ此稅源論ハ起コラヌデアリマス、政府ハ惡
稅ト云フ名ヲ拒ム程ノ勇氣ハナイガ、併ナガラ稅源他ニ無シト云フ言葉ヲ以テ間接ニ其
實地ノ運用ヲ拒ムト云フコトニ本員ハ理解スルデアル、何故ニ是ハ政府ノ信用有無ノ
問題ト云ヒマス、是ニ付テハ溯ッテ此稅ノ課セラレタ當時ノコトヲ思ハナケレバナラヌ、
此名稱ノ存シテアルガ如ク、非常特別稅法中ニ掲ゲタルコトコロノ二ツノモノデアッデ、サウ
シテ此非常特別稅ト云フ名稱ハ國家ノ一大變事ニ際シテ臨時已ムヲ得ズ課シタモノデ
アルト云フコトノ紀念ヲ此題號ニ止メテアルデアリマスカラ、斯ウ致シテ見マス、此非
常特別稅ト云フモノガ全體申シマスレバ戰爭ガ止シタナラハ前ニ豫約セラレタ如ク更ニ

明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
非常特別稅法中改正法律案
非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス
附則
本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
鹽專賣法廢止法律案
附則
本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

居ルノデアル支那モ斯ノ如ク、日米ノ間モ彼ノ如ク、又歐羅巴諸國ノ形勢竝ニ之ト關係シテ日本ニ對スル諸國ノ形勢斯ノ如キモノデアルカラ、當ニ目前圖ルベカラザルトコロノ事件ノタメニ前ヨリ計畫シテ居ッタコロノ此計畫ヲ中途ヨリ破壊セラレタルト云フコトニアラズ、尙破壊セラレベキコロノ憂モ見渡ス限リナイト云フナラバ、ドウシテモ前ニ立テラレタルコロノ明約ヲ履行スベキコロノ歷史的關係ガアルト本員ハ思フノデアル、更ニ本員ハ内閣ノ誠意ヲ疑フノハ之ヲ請求スルトコロノ者が利害關係ガアルカ、然ラザレバ其力強大ナルコトデアルナラバ、其事ニ耳ヲ傾ケルト云フ形勢ガアル、前ノ議會ニ或ル部分即チ吾ミガ政府ニ向ッテ請求シタルガ如ク、無限ニ公債政略ヲ廢止セヨ、竝ニ善キ望ノアルトコロノ隣邦ノ形勢竝ニ諸外國ノ形勢ニ顧ミテ兵備ヲ少ナクトモ繰延ベヨト云フタトキニハ、政府ハ繰延ベルト云フコトハ、形勢上出來ナイト云フ、又必要上已ムヲ得ザルトコロノモノデアルカラ、俄ニ公債政略ヲ廢スルコトハ出來ナイト云フ、此儘ニシテ居ッタカト思ヘバ忽チ或ル方面ヨリシテ極メテ財政ノ不健全、財政ノ不安全ト云フコトノ警告ヲ聞キ、更ニ之ト響ノ如ク應ズルトコロノ或ル財界ノ有力者が聲ヲ揚ゲマスルト、政府ハ忽チ此前ニハ出來能ハズト云ウタトコロノ公債政略ヲ直チニ止メルト云フコトニナッタ、是ハ宜イコトデアルカラ本員ハ極メテ之ヲ悅ブノデアル、尙其度ノ足ラザルコトヲ歎ズルモ、其方針ニ於テハ本員ハ之ヲ悅ブノデアル、サウシテ前ニハ一錢モ引クコトノ出來ナイト云フタ軍備ヲ繰延ベタノ何事デアリマスカ、是ハ内閣ガ送ッダカラ軍備ヲ繰延ベルト言ハセルコトハ出來ナイ、依然トシテ陸海軍大臣ハヤハリ前ニハ繰延ベヌト云ッテ此壇上ニ現ハレタルコロノ陸海軍大臣ハ其椅子ニ坐シテ、ヤハリ繰延ベルコトニ平然トシテ同意セラレタルト云フコトハ、必要カラ起ッタニアラズシテ、政府ガ内閣ノ折合ヲ國民ノ休戚ヨリモ重ク考ヘ、一部有力者ノ強力若クハ財界ノ勢力家ヲ恐レ、コト國民ノ聲ヨリ痛切ナレバナリト本員ハ説明シナケレバナラヌコレ故ニ議會ニシテ眞面目ニ政府ニ更ニ陸海軍ノ豫算ヲ編成シ直セト云フ聲ヲ——國民ノ聲ヲ顧ンデ政府ニ迫ッタナラバ、如何ニ政府苦シト雖モ一部財界ノ聲ヨリ帝國議會衆議院ノ聲ヲ重シナケレバナラヌト、本員思ッテ居リマス、斯ノ如ク思ッテ見タナラバ、畢意要求セザルノニ、強制セザルノニ、此政府ヲ德義ヲ以テ信頼スル丈ノ信用ヲ置クトノ出來ナイト云フコトハ、再ビ前ニ違約セラレタコトニ於テ照然トシテ明カデアルト思フ、本員ハ政府ガ動モスレバ外國ノ聲ニ信頼シテ、米國ノコトハ米國ニ行クト云フガ、此事ハ政府ガ信頼セラル、ト云トコトニ付テ本員ハ一部ノ異議ガアリマスケレドモ、併ナガラ外國ノ方ハ曲リナリニ此信頼ノ反映ノアル丈ノ始末ハ付クガ、誠ニ悲シムベシ吾ミノ戴イテ居ルトコロノ内閣ハ國民ノ信頼シ能ハズ、信頼ニ依ッテ此問題ヲ解決スル能ハズ、寧ロ強制力行ニ依ッテ始めテ其要求ヲ遂グベシト云フニ至ッテハ、本員慨嘆セザルヲ得ヌノデアリマス、サウシテドウデアリマス、本年ニ至ッテハ最も本員ハ痛嘆スルトコロノ事實ヲ各方面ニ於テ發見スルノデアリマス、ツレハドウ云フコトデアル、公債所得ノ免除法案ト云フモノガ出デ居リマスケレドモ、是ハ如何ナル人ト雖モ之ニ同意ハ出來ナイ、政府ハ僅カナ金額モナカク、容易ニ減ズルコトハ出來ナイト云フコトヲ口ニシナガラ一方ニハ所得稅ノ殊ニ富者が多ク持タレルトコロノ此公債ヨリ所得ヲ免除セント云フニ至ッテハ政府ガ紳々餘裕アル一端ヲ此方面ニ示シタノデハナイカ、豫テ非常特別稅トシ國ニ事有ツタル時ニ國民ノ愛國ノ精神ニ依ッテ前後ヲ顧ミテ暇モナク、御用金ト略、同視シテ出シタルコトノ金ハ、少シモ餘裕ガナイカラ減ズルコトガ出來ナイト云ハレルカト思ヘバ、斯ノ如キコトニ向ッテハ最も力ヲ出シテ可ナリ、稼ガズシテ公債ニ依ッテ衣食スルトコロノ富裕ノ人ニ向ッテ其所得稅ヲ免除セント云フノハ、一方ニハ富者ニ政府ガ弱クシテ貧者ニ強イト云フヲ反證シ、一方ニハ餘力ガアツデモ、尙強請セザルモノニハ與ヘナイト云フコトヲ其間ニ現ハシタモノト本員ハ思フノデアリマス、ツレカラ一方ヲ見マスルト政府ノ矛盾モ亦甚シシテ、外務大臣ハ移民ヲ或ル方面ニ集中スルノカ日本ノ利益デアラ、是ハ此間ニ無限ノ意味ヲ含マシタノデアッテ、單ニ太平洋ヲ隔ッタ所ノ對岸ノ紛擾ヲ

解クトコロ以心傳心ノ如クデアラガ、併ナガラ本員ハ斯ノ如キ政策ヲ最モ悅バヌモノデア
ルカラ、本員ハ是ハ言葉ヲ採ラナケレバ、意味モ決シテ同意スルコトガ出来ナイ、ソレナ
ハツレガ本當ノ意味カト言ヘバ決シテ左様デナ、一方ニハ南米ニ新航路ヲ開カントシテ
新タニ少ナカラザルコトヲ要求スル政府ハ議會ニ出サレテ居ル、是モ餘裕ガナト云フコ
トガ出来ルカ、更ニ特別會計デアラフ内國ノコトニ直接關係ナシト云フナガラ、金ヲ借リ
テモ尙阿利山ノ經營ヲナサント云フ政府ハ借金政策ヲ此方面ニ於テハ、ソレモ餘裕
裕ガナト云フカ、本員ハ儉約ノ心ガアツタナラバ、是等ノ事ハ着々整理スルシ、其餘裕
ヲ以テ斯ノ如キ不信、不義背德、非理ト本員ノ公言スルコトノ非常特別稅中ノ最
モ惡シキトコロノ此三稅ノ如キモノハ、一日モ早ク減ズルノ誠意ヲ表セラレントラ本員
ハ望ムノデアリマス、誠ニ此阿利山ニ借入レタ金ト、ソレカラモウツハ所得稅公債ニ依
テ得ルコトコロノ所得稅ヲ免除スル、此金額ヲ以テ云フナラバ、僅カニ此年ノ四月一日ヨ
リシテ通行稅ヲ廢止スルコトニ少シモ差支ナト本員ハ思フノデアル、ソレ故ニ政府ノ惡
稅ヲ廢止スルハ廢止スルニアラズ、爲サザルナリ、爲スノ意ナキナリト、本員ハ解釋スルノ
デアリマス、ソレナラバ政府ハ前ノ約束ヲ履ンテ調査デモスルカト言ヘバ、決シテサウデナ
政府ハ移民ノ方針ヲ確定シナイ間ニ南米航路ヲ開カウト云フハ、船ノタメニ航路ヲ開ク
ノデ、古人ハ人ノタメニ官ヲ設ケルト云ツタガ、今ノ政府ハ船ノタメニ航路ヲ設ケルノ
ル、貿易ノ額ヲ問ウタナラバ南米ハ幾許ノ貿易モナイノデアル、ソレナラバ移民ノタメカ
云ヘバ、移民ハ一方ニ集中スルノガ利益デアルト云ツテ居ル、其同日ニ更ニ遞信大臣ガ
移民ト貿易ト兩方ダト云フ、殊ニ見苦シキトコロノ誠意ナキ說明ヲ以テ免レタト云フコ
トハ、内閣ニ誠意ナキ一端ヲ此事件ニ於テモハリ暴露シテ居ル、誠意ナキ人ニ德義
上返金ヲ催促スルノハ迂遠モ亦甚シデ、唯多數ノ決議ヲ以テ國民ノ意思ヲ撓マズ強行
スルヨリ外ニ此方針ヲ破ルコトハ出来ナイト本員ハ確信シテ居ル、移民調査モアレバ、議
院及官廳建築ノ調査モアレバ、條約改正ノ調査モアレ、關稅改正ノ調査モアレ、是等
ノ費用ハ皆豫算ノ中ニ計上シテアル、本員ハ之ヲ以テ不急ノ費用トハ言ハナイ、併ナガ
ラ更ニ是ヨリ急ナルモノガアルト云フハ、國信ナケレバ立タズ、政府信ナケレバ如何ニシ
テ民ニ蒞ムコトヲ得ンヤ、前ニ非常特別稅ト云フ名ヲ以テ戰ガ終ル一年後ニハ返スト云
ツタコトノ約束證文ハ、更ニ財政ヲ整理シテ其中ノ惡利イモノハ除クト云フコトデ、此期
限ヲ延バシタト云フコトデアラナラバ、國民ニ對シテ内地ノ稅法改正ト云フコトハ、ドウシ
テ急ギノ一ツノ急務デアルト云フコトヲ常識ノアル者ハ皆認メネバナラヌトコロノモノデア
リマス、サウシテ此調査スラナイト云フニ至ツテハ、本員ハ當ニ着手セザルバカリデナク、
之ヲ改正スルコトコロノ意ナキナリト彈劾的ノ口調ヲ云フハ、決シテ私ハ禮ヲ失シテ居
ラヌト思フノデアリマス、更ニ政府ガ斯ノ如キ改正ニ意ナク、詰リ力ツクテ取ラレモ、
外ハ容易ニ返サヌノハ、政治ヲハルニ便利デアルト云ハヌバカリ、態度ヲ執ラレト本員
ハ信ズルノデアリマス、豫算委員會ニ於テ自然増收ヲ此豫算中ニ計上シテナ、ソレ
ナラバ自然増收ノアツタ場合ハ如何スルカト云ツタナラバ、ソレハ又政府ノ見込デ以テ事業
ニ充テルノダト云ツタカラ、本員ハ直チニ其席ニ於テ然ラバ自然増收アリト雖モ尙租稅
ノ改正ニ意ナク惡稅ヲ擲ナサルカト言ツタナラバ、其答ニ至ツテハ殆ド不得要領ニ了ツテ、
最早追窮スルノ價值ナキ見苦シキ筆跡ノ中ニ留メタルト云フコトニ至ツテハ、
政府ニ改正ノ意ナキナリト云フモ、決シテ禮ヲ失シテ居ラヌト思フノデアリマス、故ニ戰
後經營ノ第一着手トシテドウシテモ國民ノ信用ヲ政府ニ集メルト云フコトガ最大急務
デ、是ガ根柢トナツタ花ガ咲ケバ是ガ實トナリ實ニナレバ國ノ力トナルノデアリマスカラ、
是非トモ租稅ヲ改正シテ、惡稅ヲ除クト云フコトヲ政府ガ務メナケレバナラヌ、其務ヲナ
スト云フコトニ付テハ、決シテ促サレバナサザルト云フ政府ノ性質ヲ唯今論定シタル以
上國民ニ代ツデナスベキ衆議院ガ之ヲ促スヨリ外ニハナイ、本員ノ考フルコトコロニ依ルト
是ハ當ニ三惡稅ノ改正ノ意味デハナイ、本年ニ於テハ斷然之ヲ改廢シナケレバナラヌ、

廢止シナケレバナラヌト云フコトヲ確定致シマシタナラバ、其缺陷ヲ補ハンガタメニ却テ政
府ハ引締レデアラウト本員ハ思ツテ居リマス、一部稅ノ改廢ハ即チ全部ノ稅法整理ノ端
緒デアリマスカラ、本員ハ國稅改革ノ一歩トシテ之ヲ唱フルノデアラ、區々稅制ノ
問題トハ見テ居ラナイ、本員ハ確信致シマス、四鄰平和デアラコトハ、太平洋ハ其波ヲ揚
グ、遠東誠ニ平和デアラ、更ニ歐羅巴諸國トノ關係モ平和デアラコトハ、外務大臣ノ
述ベラレタコトヲ信ズルノデアリマスカラ、此場合ニ於テコトヲ、所謂一張一弛ハ文武ノ道
ナリ、前ニ張詰メ兵備ノ年限ガ延ビテモ宜シイデアラ、年限内ニ割當テ、アル費用
ハ十年以上ニ渡シテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ前途ニ仕拂フト云フコトコロノ繰替ヲ致シ
シタナラバ、之ヲ以テ三稅ヲ廢スルニ何ノ難キコトカアル、斯ノ如キ國力ヲ見計ツテ靜
ニ國ノ内外ノ政治ヲ舉ゲルト云フダケノ誠意ヲ表セラレタナラバ、直チニ此問題ハ解決ス
ルノデアリマスカラ、公債政策ヲ打切ツタルガ如ク、償還基金ヲ増加シタル如ク、又昨年
不能ナリシト言ヒシコトコロノ軍備ノ費用ノ繰延ヲナシタルガ如ク、又本年提出セラレタ
トコロノ所得稅免除ノ法案ニ七十万圓以上ヲ政府ガ減稅スルコト企テラレタル如キ、是
等ノ事情ヲ綜合シテ考ヘタナラバ、一ノ故障ナクシテ民望ヲ達スルコトガ出来ルノデア
リマスカラ、本員ハ斷々乎トシテ此改正ノ實行シ得ベキヲ疑ハヌノデアル、併ナガラ尙本員
ハ調和的精神ヲ以テ此議案ヲ同志諸君ト共ニ提出シタコトヲ一言シナケレバナラヌト
思ウテ居リマス、本年四月一日カラ廢止セシムコトヲ、併ナガラ今年ノ四月ニ廢
止スルコト云ウテ、此事務ニ取組レテ居ルトコロノ政府ニ恰モ高キ利息デ貸シタルコ
ノ人ガ其債務者ニ追ルガ如キ文面ニ依ツテ態度ハ國民ヲ代表スル帝國議會ノ態度ト
思フコト居ラヌノデアリマス、一年ノ猶豫ヲ與ヘテ來年四月一日カラ之ヲ御止メナサ
云フコトニ付テハ極メテ簡單ナル請求ナリト本員ハ信シテ居ル、斯ク說明致シタルバ一
點此財源ニ於テモ論ヲ容ル、トコロノ必要ハナイト思ヒマス、更ニ此惡稅ノ證據ヲ舉
ルコトヲ幸ヒニ議會ガ許サルナラバ、本員ハ昨年述ベマシタトコロノ補遺トシテ政府ノ
當局者ノ論ズル所ヲ茲ニ於テ論駁シナケレバナラヌ必要ヲ感ズルノデアリマス、併ナガラ
之ニ對スルヨリハ寧ロ國民ノ意志此處ニアリト云フ大體ニ於テ、此衆議院ノ御方ガ御
同意デアラナラバ、更ニ多數ノ委員ヲ組織セラレテ慎重審議政府ノ當局者ヲシテ一
ヲ吐ク能ハザラシムルマデ委員會ト本會トニ於テ力責メニシテ、此域廢ヲ攻落スコトガ
必要デアルト本員ハ思フノデアリマスカラ、第二ニ委員會ノ議論ト此本案ガ再ビ第一
議會ノ引續キトシテ此議案ニ出マヌルコトニ政府ノ悞傲、政府ノ背信、政府ノ不義、不
信ヲ攻メルコトコロノ證據ヲ舉ゲテ、此政府ノ權籠テ居ル城廓ヲ攻メテ、己ム能ハスト云
フコト、此口實ヲ破ルノ機會ハ前途ニ尙多シト信シマスルガ故ニ、唯此議案ヲ提出シ
タルコトコロノ大意ヲ諸君ニ訴ヘテ御同意ヲ請フノデアリマス

(内閣總理大臣侯爵桂太郎君登壇)

○内閣總理大臣侯爵桂太郎君 唯今此議案ニ上リマシテ諸君ノ御討議ニナリマ
スルコトコロノ三稅廢止案、唯今ノ島田君ノ御演說ノ實名詞ヲ蹈襲致シマス、三稅廢
止案、此場合ニ於キマシテ政府ハ所信ヲ申述ベマシテ、諸君ノ御考慮ヲ煩ハサント考ヘマ
ス、諸君、帝國ノ財政ハ諸君御承知ノ如ク戰後内外百般ノ事業ニ於キマシテ、其經營施
設ヲ要スルモノ最モ多クアルノデアリマス、爲ニ經費ノ急激ニ増加ヲ來シ、歲計上確
實ナル財源ノミヲ以テマシテ歲出入均衡ヲ保ツトハ出来マセ、又公債ハ戰時以後
急激ニ増加シ、之ニ加ヘマシテ鐵道買収ノタメニ交附致シマスルコトコロノモノハ亦少ナ
ラヌノデアリマス、財政ノ前途ニ付キマシテ内外ニ於キマシテ幾分力不穩ノ念ガアリマ
シタ、是ヲ以テマシテ政府ハ歲出入均衡ヲ計リ、財政ノ基礎ヲ鞏固ニ致シマシテ、公
債整理ノ方針ヲ定メ、國ノ信用ヲ恢復致シマスルコトハ國家一日モ忽セニスベカラザル
急務ナリト考ヘマシテ、政府ハ此必要ニ依リマシテ既定ノ事業ニ對シマシテハ、其緩急
ヲ計リ、出來得ルダケ繰延ヲ行ヒ、尙行政費ニ於キマシテモ節減ヲ加ヘ、財政上ノ計

CHH

教育行政上ノ妨ゲタルトモ決シテ發達ヲ促スモノデアリマイト云フコトハ、二十九年來
吾人ノ議論デアッタガタメニ、時ニハ文部當局者ノ知己ノ人ニ會フテ此議論ヲ闡ハシ、大
學ノ教授ニ會フテハ、又此議論ヲ闡ハシタコトガ屢アリマス、專門教育ニ熱心ナル人
ト意見ヲ交換シタコトモアリマス、又獨逸ニ往ツテ獨逸ハ皆綜合大學ノ制度デアリカラ、
獨逸ハ何故ニ綜合大學制度ヲナレバナラヌカト云フコトニ付テハ、獨逸當局者ナリ、獨
逸大學ノ教授ナリニ能ク開イタルアレバナラヌカト云フコトモ、少シモ本員ガ綜合大學ヲナレバナ
ラヌカト云フコトニ服セシムルガ、理由ヲ見出サナカッタデアリマス、殊ニ獨逸ノ綜合大學ノ如
キハ全ク歴史のデアリマシテ、或ル學校ノ如キハ六百有餘年ノ歴史ヲ持ッテ居ルノガア
ル、私ノ居ル學校モ五百有餘年ノ歴史ヲ持ッテ居ル、此大學ノ沿革ヲ調べ見ルト、昔ハ
神教大學、耶穌教大學デアッタヲヤハリ日本國ト同ジク坊サント醫師ヲ兼ネルトカ
云フタメニ、神教大學ハ或ハ哲學ヲ研究スル醫學ヲ研究スルヤウナリ、斯ウ云フコトデ
段々加ヘテ居ッタノミナラズ、獨逸ハ一ツ國デアリガ二十六聯邦アル、今ノ普魯西ハ五ツヤ
六ツノ大學ヲ持ッテ居リマスケレドモ、元ハ小サカタ、之ガタメニ一ツ州ニ一ツノ大學
ヲ置クト云フヤウニナレバ、ヤハリ綜合大學デ、近クニ置クガ便宜ノタメニ綜合ニナツタ
デ、又新シク起ツタノハ、競争的ニ大學ノ起ツタデアリ、普魯西ノ如ク大學ヲ餘計持ッ
テ居ル國ハ免角バイレルンガ一ツ持ッテ居ル外皆一ツデアリ、故ニ大學ト云フモノヲ是非
綜合ニシナケレバナラヌカト云フ道理ヲ發見シナカッタデアリ、現ニ佛蘭西ハ元ト單獨大學デ
アリシモノヲ、大學ニシタメニ現今困難シテ居ルト云フコトヲ聞クデアリマス、サレドモ
綜合大學モ全ク不便デナク便利ナル點ハ一ツ一廓内ニ諸大學ヲ包含致シマスレバ、
生理學ノ教授ガ理學ノ教授ノ說ヲ聞クコトガ出ルルカ、或ハ書籍館ヲ一ツニ出來レバ
カ、斯ウ云フ便利デケガ、即チ綜合大學ノ便利デアリ、故ニ然ラバ我唯一ノ古キ歴史ヲ
持ッテ居ル東京帝國大學ガ、果シテ利益アルトコロノ綜合大學ノ實ヲ現ハシ居ルヤ否ヤ
ト言ヘバ、決シテサウデナイ、精神病院ノ集積ニ於ケル、農林大學ノ駒場ニ離レテ居ル
ガ如ク、唯一ノ古キ帝國大學モ綜合ハ實ニ居ナイ、京都帝國大學、福岡ノ醫科
大學ノ如キ、東北帝國大學、札幌農科大學ノ如キハ、寧ろ滑稽至極デアリマス、故ニ
本員ノ持論トシテハ綜合大學ヲ破ル方ガ宜イケレドモ、若シ是非綜合ニシナクテヤナラヌ
ト云フコトナレバ、今ノ如ク京都帝國大學、岡山醫科大學、東京帝國大學、新潟醫
科大學ト云フモノ、宜イ、或ハ東京帝國大學、千葉醫科大學ト云フモノ宜イ、現在三ツ
ノ大學ヲ綜合トシ、別ニ單獨大學ヲ併セテ置クト云フコトモ決シテ著シクナカラウト
思ヒマス、故ニ綜合ト云フ文字ノタメニ此醫科大學ヲ増設スルト云フコトニ對シ、停止ス
ル理由ハ、一ツモナルモ思ヒマス、第二ニハ若シ今日ノ程度ハ醫學專門學校ニ入學
スル者ハ、中學ヲ卒業スルト直グニ這入レルデアリ、醫科大學ニ皆シテシマフ、其間
高等學校ノ三年ヲ履マセナケレバナラヌカ、年限ガ長クナル、年限ガ長クナルカラ、志
願生ガ非常ニ減リハシマイカ、其結果トシテ醫師ヲ多ク拵ヘルト云フコトガ出來ヌト云フ
理窟デアリ、併ナガラ此理窟ハ事實ニ依ッテ打消スコトガ出來ルデアリマス、近四五年
ノ間ニ於テ高等學校三部ノ入學者、即チ醫科大學ヲ希望スルトコロノ生徒ハ常ニ收
容數ヨリ六倍位多イデアリ、故ニ一部ハ同ジ試験ヲ這入レテモ、三部デハ落第
スルト云フ有様ニナツデ居ル、昨年カラ此三帝國大學ニ於テ三百五十八人收容スルトコトガ
出來ル、然レニ二千八百人バカリノ志願者ガアル、而シテ此入學ノ困難ニ依リ、又醫學專
門學校、及ビ府縣立ノ醫學學校ニ肩ヲ變ヘル者ガ澤山アルデアリマス、故ニ此志願者
ガアレバ總テ醫科大學ニシテモ苦シクナイノミナラズ、醫學專門學校ノミナラズ府縣立
ノ醫學專門學校ニ入校スル者ハ三倍アル、ヤハリ之モ競争試験ノヤル、中學校卒業
生ノ一人カ二人ノ持持生ガ這入ルカ知ラヌガ、多クハ之モ競争試験ノミナラズ、一年カ二
習科ニ入學シタ或ハ私立ノ不完全ナル學校デ入學試験ノミナラズ、一年カ二這入ッテ居ルカ
シテ、ヤハリ高等學校ノ豫科ヲスルト殆ド同ジダケノ年限ヲ中學校醫學專門學校ニ這入
ル間ニ費シテ居ルデアリマス、殊ニ大阪府立高等學校ノ如キハ現在中學校ノ卒業生

ニ對シテ競争試験ヲ行ヒ、尙且ツ二年ノ豫科ヲ置イテ居ル、殆ド帝國醫科大學ト同ジ
ヤウデアリニモ拘ラス、ドンク入學希望者ガアルト云フ事實カラ見テモ、此心配ハナイ
ト信ズルデアリマス、加之我教育社會ニ於テハ歐羅巴人ハ二十三位ニ大學ヲ卒業ス
ル、サウシテ社會ニ活動スル、日本ノ如キハ洋學ヲヤラナレバナラヌカラ、大學ヲ卒業
生ガ二十六七ニナル、醫科大學ノ如キハ二十七七八カ三十三位ニナルカラ、此者ヲ社
會ニ活動サセルト云フニ付テハ歐羅巴ト對等ニナラス、甚ダ時間ノ上ニ經濟上宜シク
イト云フタメニ、教育社會ニ於テハ小學校カラ大學マデノ聯絡ヲ宜クシテ、成ルベク一年デ
モ早ク卒業サセルト云フコトハ教育社會ノ研究ノ問題トナツテ居ル、是又文部省デモ研究
シテ居ルト云フコトデアレバ、此結果又一一年位ハ短縮スルトナルコトハ近キ未來ニ現
ハレルト思フデアリマス、然ラバ高等學校ノ三年ノタメニ入學試験者ガ減ルト云フコト
ハナイト云フコトヲ斷定スルニ足リマス、第三ニハ醫科大學ヲサウ澤山拵ヘルト金ガ要リ
ハシナイカ、國庫ノ金ガ要リハシナイカト云フ問題デアリ、然レニ私ニ言ハセバ幾分力
要、少シノ金ハ要ルケレドモ決シテ多クノ金ガ要ラヌト云フコトヲ事實ニ於テ申上ゲル
コトガ出來ルデアリマス、今ハ特別會計ニナツテ居リマスケレドモ、三十九年度ニ於ケル
トコロノ大學ノ經費ハ、東京醫科大學ガ三十五萬圓、其中ニ藥劑ノ方ガ這入
テ居リマス、醫科大學ハ、京都府方ガ二十九萬圓、九州ガ三十萬圓デアリ、
平均三十萬ト見テ宜シイ併ナガラ三十萬ニ校九十九萬圓出シテ居ルガタメニ、月謝其
他入院料藥代ハ隨分多額ノ金ガ大藏省ニ戻ル、少クモ半分以上ハ戻ルデアリ、半
分以上戻ルト云フコトヲ推測スルニ足ル事實ガアルデアリマス、大阪ノ高等醫學學校ハ
毎年ノ位費シテ居リマス、去年ノ豫算ハ二十六萬圓ノ經常費ヲ出シテ居
ル而シテ大阪ノ高等醫學學校ノ二十六萬圓ハドコカラ出シテ居ルカト言ヘバ、府費ハ一ツ
モ出シテ居ラヌデアリマス、月謝ノ二萬六千圓ノ外皆病院ガ這入ッテ居ル、其外擴張
シタリ或ハ建築シタリ新築シタリスル學校ノ借金マデノ利息ト、及ヒ償還ノ方法ヲ立
テ居ルデアリマス、醫學專門學校ニ國庫カラ出シテ居ルノハ約四萬五千圓ノ平均デア
リマス、五專門學校、新潟ガ立テ六專門學校、此一校ニ付テ毎年四萬五千圓ノ金
ヲ出シテ居ルデアリマス、所デハ病院費ハ不レテ居ラヌ、コレハ何故カト言ヘバ
各府縣ノ病院ヲ借りテ居ルデアリマス、病院自身デ改築モスレバ、病室ノ新築モスル
ト云フコトデ、尙御負ケニ病院ノ院長ニ岡山ノ如キハ國庫カラシテ醫學學校長ニ二千圓
モ與ヘテ、而シテ岡山カラ千圓モ與ヘテ居ル、諸大學中四千圓與ヘテ居ル人ハ一人モ
居ラヌト云フヤウナコトモナツテ、病院自ラ自營シテ餘アリト云フコトガ證據立テラレ
デアリ、サレバ今内容ノ充實シタモノヨリ文部省カラ醫科大學ニスルカラト云ヘバ、其府
縣ハ喜ンテ其病院ハ勿論擴張スベキ土地マデモ寄附セヨト云ヘバ、昔ノ例ニ依ッテモ喜
ンデ寄附スルデアリマス、喜ンデ寄附スレバ學校病院ト云フモノニ向ッテハ殆ド新築ト云
フトコロノ臨時費ハ要ラヌデアリマス、サウシテ病院ノ經營ハ經營シテ餘アリ、大學ニ
於テハ多少少施患者ガ餘計掛ルト云フヤウナ事ガアリマスケレドモ、ソレニシテモ病院費ハ
餘リアルデアリマス、故ニ若シ吾人ノ推測ニ依リマスレバ、一校ニ三萬乃至五萬ノ金ヲ
出シタナレバ、裕ニ醫科大學ヲ特別會計ニシテ往ケバ、裕ニ醫科大學ヲ經營シテ往ケル
ト信ズルデアリマス、文部當局者ハ或ハソノ少額デハ出來ヌト云フコトヲ言フカモ知
レヌガ、此事ニ付テ一言シテ置キタイノハ日本ノ大學ノ教授ハ少ク神經過敏デアリ、東
京ノ醫科大學ガ解剖ニニツノ講座有シ、内科ニ三ツノ講座有スルト云フ、九州
モ京都モ皆同ジヤウニシナケレバ、ナラヌト云フ、文部省ニ迫ル文部省モ亦之ニ應ジマ
ス、ソナニ何ンモ皆同ジニシナケレバ醫科大學ガ出來ヌト云フコトハナイ、コッポ博士
デアリシト思フ、日本ノ醫科大學ヲ見テ斯ノ如ク多クノ講座ヲ持チ、此ノ如クノ分科ヲ
持チ斯ノ如ク多クノ「ベツ」ヲ持ッテ大學ハ、獨逸ニ於テモ柏林ダケノ外ニナイト云ハレ
テ又事實ナインデアリ、私ハ茲ニ種々表ヲ速記録ニ載セタメ元長ニナリマスカラ略
テ申シマセヌカラ、後トテ御精讀ヲ願ヒマスガ、歐羅巴ニ於テ柏林ノ醫科大學ハ五十九

仙臺醫學專門學校	四八六	五六一〇	一一二	二	四七八	四八三	五	六四	七九	一五
岡山醫學專門學校	四八八	四七八	三〇	一〇九	九八〇	四八三	四八三	一〇八	△	二五
金澤醫學專門學校	四四〇	四四〇	一三	一〇二	四三三	四八六	一〇三	九七	△	二二
長崎醫學專門學校	三七〇	三七九	二九	一〇	九六△	四〇三	四〇三	一〇九	一七	八
計	二三五五	二五〇五	一〇	五六一	五二△	四〇二	二二	三三	五三	六
備考 清國及人及ヒ藥劑生ハ之ヲ除外セリ										
醫育統一ノ目的ヲ以テ必要ノ醫科大學ヲ建設スルニ際シ其設備ト内容ヲ全然平等タラシメンコトハ甚タ困難ナルヲミナラス敢テ必ス之ヲ行ハサル可ラサルノ理由ヲ認メス醫育先進諸國ニ於ケル左表以テ之ヲ證スルニ足レリ										
獨乙國大學一年ノ經費全部ヲ舉ゲス										

伯林大學	三六七二	三六〇五	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
ライプツヒ大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
フライブルヒ大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
ロストツク大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
ユナ大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
埃太利國(全部ヲ舉ゲス)	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
維納大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
インスブルグ大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
ベルン大學(歐醫科含)	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
チューリッヒ大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
ゲンフ大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
和蘭國(全部ヲ舉ゲス)	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
アムステルダム大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
ウトレヒト大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
白耳義國(全部ヲ舉ゲス)	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
リユツツヒ大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
ガシ大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
佛蘭西國(全部ヲ舉ゲス)	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
巴里大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
ボルドウ大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
レンネ大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
以太利國(全部ヲ舉ゲス)	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
一九〇〇一九〇一年度	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
羅馬大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
ボルニヤ大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
モデナ大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
露西亞國	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
ベテルブルグ大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
カザン大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
ドルバート大學	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
以上ノ經費額ハミネルバ	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
年報千九百六年ノ分ニ據リ多クハ千九百四年或ハ千九百三年ノ豫算ヲ示セリ	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
但維納大學羅馬大學ノミハ最近ノ報告ヲ得ス止ムナク最終公表ノ年度ヲ特記ス	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
附記	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇
歐洲諸國ノ人口ト醫科大學數ヲ知ルコトハ吾邦醫科大學設置ノ參考トナル可キヲ以テ左ニ其概表ヲ舉ゲル	二八六三	二六六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇	二八六〇

歐洲各國人口ト醫科大學	人口	五八六三七	一七八	大學數	二
獨逸	人口	二六二四五	〇一七	大學數	二
瑞西	人口	三三二四五	四四三	大學數	八
白蘭	人口	五二六三	二二二	大學數	六
佛蘭	人口	六六九三	八一〇	大學數	四
以太	人口	三八九六	九四五	大學數	四
露西	人口	三二四五	七〇〇	大學數	六
英吉利	人口	一四、〇〇〇、〇〇〇	四一六	大學數	一五
獨逸	人口	二六二四五	〇一七	大學數	二
瑞西	人口	三三二四五	四四三	大學數	八
白蘭	人口	五二六三	二二二	大學數	六
佛蘭	人口	六六九三	八一〇	大學數	四
以太	人口	三八九六	九四五	大學數	四
露西	人口	三二四五	七〇〇	大學數	六
英吉利	人口	一四、〇〇〇、〇〇〇	四一六	大學數	一五

○恆松隆慶君 本建議案ハ九名ノ委員ニシテ、議長ノ指名アランコトヲ請ヒマス
〔贊成々々〕ト呼フ者アリ
○議長(長谷場純孝君) 恆松君ノ委員ハ九名トシ議長ノ指名ニスルト云フコトニ御異議ハアリマセカ
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 鐵道建設ニ關スル建議案、野田卯太郎君外十二名提出、朗讀ハ略シマス——古賀庸藏君
〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

第十六 鐵道建設ニ關スル建議案(野田卯太郎君外十二名提出)
一 鹿兒島縣下吉松ヨリ分岐シテ宮崎縣下宮崎、延岡ヲ經テ大分縣下大分ニ接續スル鐵道
一 大分縣下大分ヨリ熊本縣下熊本ニ至ル鐵道
一 熊本縣下八代ヨリ分岐シテ水俣、鹿兒島縣下米ノ津、川内ヲ經テ鹿兒島ニ接續スル鐵道
一 福岡縣下吉塚ヨリ分岐シテ佐賀縣下唐津、伊萬里長崎縣下下田平ヲ經テ佐世保ニ接續スル鐵道

右鐵道ハ產業ノ發展交通ノ不備ヲ補ハムカ爲急設ヲ要スルモノト認ムルニ付政府ハ速ニ調査ヲ遂ケ相當ノ處置ヲ執リ建設ニ著手アラムコトヲ望ム
右建議ス

(古賀庸二君登壇)
○古賀庸二君 諸君、本員ハ鐵道建設ニ關スル建議案ノ提出者ノ一人トシテ提出スル理由ヲ簡單ニ述べマス、本案提出ハ鹿兒島縣下吉松ヨリ分岐シテ宮崎縣宮崎延岡ヲ經テ大分縣下大分ニ接續スル鐵道、第二が大分縣下大分ヨリ熊本縣下熊本ニ至ル鐵道、第三が熊本縣下八代ヨリ分岐シテ水俣、鹿兒島縣下米ノ津、川内ヲ經テ鹿兒島ニ接續スル鐵道、第四が福岡縣下吉塚ヨリ分岐シテ佐賀縣下唐津、伊萬里、長崎縣下下田平ヲ經テ佐世保ニ接續スル鐵道、此四個ノ鐵道ヲ此内第一ニ屬シテ居ルコトヨリノ線路ハ既ニ政府ノ計畫ニ係ル十二年計畫ノ部分ニ這入ッテ居ル鐵道アリマス、併ナガラ此建設時期ニ於テハ未ダ何等定マルコトナク甚ダ以テ遷延歸スル所モ分リマセカ、此線ハ最モ速成ヲ希望スル次第デ、以上ノ線路ニ沿ウテ居ルコトノ地方ハ其現在ニ於テ產業力ノ大ニ見ルベキモノガアルト共ニ、其前途發展ノ上ニ於テハ最モ必要ナ事柄ニ屬シテ居ル、又從來此地方ハ交通機關ノ設備ガ缺ケテ居ルガタメ現在ノ生産品ヲ輸送スルコトガ出來ナイト云フ有様、況ヤ又前途發展ノ上ニ於テハ一層以テ運輸交通ト云フコトハ困難ヲ來スト云フ有様、然ルニ今我國戰後經營ノ主眼トアルモノハ、國力ノ發展ト云フコトニ付テ重キテ置イテアル、又重キヲ置カサルヲ得ヌコトアル、サレバ斯ノ如キ鐵道ハ一日モ速ニ建設セザレハ國論ニ添フト云フコトハ出來ナイ

鐵道建設ニ關スル建議案

事柄ト存ジマス、故ニ此線路ハ速ニ建設シテ、以テ初メテ國力發展ヲ致ス所ニ添ハナケレバナラヌト考ヘマス、諸君、御賛成ノ上通過スルヤウ希望シマス

○恆松隆慶君 本建議案ハ事九州ノ鐵道ニアリマスガ、其次ノ鐵道速成ハ全國ニ亘ル鐵道建議案デアリマスカラ、同一委員ニ付託シテ此十六ノ建議案ハ二十七名ノ委員議長指名ニセラレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 唯今恆松君ノ動議ノ如ク、議長指名ノ委員二十七名ノ附託スルコトニ御異議ゴザイマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ハナイト認メマス、日程第十七、鐵道速成ニ關スル建議案、長晴登君外十三名提出 議案朗讀ヲ省略致シマス、長晴登君

第十七 鐵道速成ニ關スル建議案(長晴登君外十三名提出)

鐵道速成ニ關スル建議案
政府ハ曩ニ鐵道經營ニ對シ十二箇年計畫ヲ立テテ豫算委員會ニ表明スルニ當リ本院ハ之ヲ緩慢ナリトシ六箇年計畫ニ短縮セムコトヲ建議シ又前期議會ニ於テ其ノ速成ヲ促カサムカ爲全會一致ヲ以テ更ニ建議シタリ然ルニ政府ハ本年度ニ於テ豫算ニ計上セサルノミナラス其ノ方針スラ之ヲ明ニセサルハ本院ノ甚遺憾トスル所ナリ政府ハ速ニ其ノ實蹟ヲ舉ゲムコトヲ望ム右建議ス

(長晴登君登壇)
○長晴登君 我ハ長ト云フ苗字ニ反對シテ簡單ニ說明ヲ致シマス(「ヒヤノ」) 本案ハ歴史ノアルコトデゴザイマシテ、別段ニ御説明ヲスル必要ハアリマセヌケレドモ、唯此本案ニ含有スルモノハ從來ノ規定ニ依テ既ニ著手シテ居ルノガ十七線アリマシテ、而シテ本建議案ヲ作ル時代ニ於テ調査ガ行居イト所謂見込ニテ豫定線ニナツテ居タモノハ十九線デシタガ、其後政府ノ調査ガ進ミマシテ今日デハ二十二線ニナツテ居テ、詰リ三線ガ加ハリマシテ、又豫算額ニ於テモ當時ハ改良費ヲ含ミテ追加額モ僅ニ二億四千萬圓位デアリマシタ、從テ今日ハ二億五千萬圓ニ増加シテ居リマシテ、而シテ其哩數ハ既定ノモノハ一千六百九十哩程アリマシテ、追加ヲ要スルモノガ千五百九哩、合シテ二千九百九十九哩ノ全國ニ亘ル鐵道デゴザイマス、而シテ之ヲ急ニセンケレバナラヌト云フノハ是等ノ鐵道ハ如何ナルモノデアアルカト云ヘバ、即チ九州ノ半面或ハ山陰山陽ノ半面、或ハ日本海ニ面スル北陸、並ニ北海道或ハ東北ト云フヤウナ極メテ土地廣クシテ、而シテ開拓ノ實ノ舉ラヌトコロノモノデゴザイマシテ、詰リ一面カラ日本デハ鐵道即チ交通ノ神經ガ通テ居ルト通テ居ラヌ處ガアリテ、而モ國家ノ營養分タル血液ヲ循環スルコトハ一方ニ行居キ、一方ニ行キ居カヌト云フヤウナ現狀ヲナシテ居リマス、然ルニ今日マデノ政府ノナス所ハドウナツテ居ルカト云ヘバ、先ニ十二年計畫ヲ立テ、而シテ本員ハ之ヲ以テ甚ダ緩慢ニ失スルコトシテ六年ノ計畫ヲシタニ拘ハラズ、今年ノ案ヲ見レバ唯豫定線ノ案ヲ出シテ居ルタケデアツテ、未成線ヲ出シテ居ラヌ、豫算案ヲ出シテ居リマセヌ、是ハ四十一一年ヨリシテ出スベキコロノ豫定デアツタニ拘ラズ、四十二年度ニ於テモ尙顏ヲ出シテ居ラヌ次第デゴザイマス、而シテ此參考ノタメニ帝國鐵道會計法ノ委員會ニ於テ其見込ヲ聞ケバ、四十二年度ヨリ五十六年度ニ掛ツテ十四年間計畫ヲシタイト云フダケノ考ハアルト云フコトハ言ツテ居ルケレドモ、少シモ之ニ對シテヤツテ居リマセヌ、抑鐵道ノ計畫ト云フモノハ即チ全國ニ亘ル成ルベクハ其利益ヲ等シク受ケサセルト云フノガ始メノ鐵

道敷設法ノ精神トナツテヤツタデゴザイマス、ソレ故ニ其計畫ト云フモノハ全國ニ亘ル其鈞合ヲ取ツテ、其計畫ヲ定ムルト云フノガ大精神デアツタ、然ルニ一方ノ方ハ著手シテ一方ハ豫算ニ計上セヌト云フコトハ是ハ片跛ニシテ、是等ノ線路ハ即チ政府ニ要求スルノガ嘆願デハナイ、要求ノ權利ガアルト云フコトヲ私ハ主張スル次第デゴザイマス、又一方カラ見レバ日本政府ハ甚ダ海ノタメニハ親切デアアルガ、陸ノタメニハ少シカヲ入レテ宜イト云フコトヲ言ヒタクナツテ來ル、何トナレバ即チ年々海運業ノタメニ補助費モ再ビ戻ラザル金ハ一千二百萬圓以上計上シテ居ル、然ルニ鐵道ハドウデアアルカト云ヘバ、唯公債ニ依ツテ、借金政略ニ依ツテヤツタノデ、昨年ノ如キ著々ノ利益ヲ生ジタモノヲ元金ヲ返シテ居ル、而シテ今日デハ利子ヲ拂シテ尙餘リヤツタ元金ヲ自營ニ依ツテヤラウト云フ國家ニ對スル手續ト、金ノ運轉上ノコトヲ世話シテ呉レト云フダケノ話デアツテ、鐵道ノタメニ國家ノ方カラ金ヲ頂戴スルコト云フコトハ少シモナイ、海ニ對シテハ金ヲ掛ケテ、ソレダケヤツテ居ル、然ルニ鐵道ノ方ハ金ハ頂戴セヌデ造ル、ソレデハ鐵道敷設モ出來ナケレバ、海陸ハ聯絡モ出來ヌ、サウシテ其通り片跛ニヤツテ居ルコトニ對シテハ、政府ノ無能ヲ嘲ラザルヲ得ヌ次第デゴザイマス、私ハ今日ハ之ニ對シテハ政府ニ對シテ十分ノ要求ヲスルコトガ必要デアラウト考ヘマス、ソレガドウデアアルカト云ヘバ、政府ガ昨年吾々ノ建議ヲ容レテ、鐵道ヲ特別會計ニシテ獨立スルコトニナツタ、又院ノ大勢モ之ニ對シテ大體ニ於テ贊成ヲ表スルコトニナツテ居ル、果シテ然ラバ斯ノ如ク鐵道ヲ國有ニシ、而シテ又其會計ニ付テ十分ニ政府ノ要求スルコトヲ容レテ、即チ機關ハ完全ニ出來タノデアアル、道具建ハ十分出來タ以上ハ、十分ナル仕事ヲシテ貫ハナケレバナラヌ、殊ニ又吾々ハ遠ク聞イデ、即チ臺灣や或ハ支那ニ於テハ——即チ滿洲ニ於テハ非常ニエラサウナ吹聴ガアツタコロノ後藤遞信大臣ガ、此鐵道院ノ總裁ニ任セラレテ、先ツ豪傑ト評セラレ後藤君ガ此責ニ與ラレ、而モ其後見人トシテ桂總理大臣ガ當ラレテ而シテ道具建ハ要求通りヤツタ以上ハ、之ニ對シテ速成ガ出來ヌト云フコトデアツタナラバ、是レコト是等ノ人ハ名前ヨリ違フニ依ツテ試驗モシテ見タイ積リデアアルカラ、當路ノ諸君ハ奮發シテ此件ニ當ラレンコトヲ希望スル次第デゴザイマス

○恆松隆慶君 本建議案ハ前ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス
○議長(長谷場純孝君) 恆松君動議ノ通り、本議案ハ前同一ノ委員ニ付託スルニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)
○議長(長谷場純孝君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

(書記朗讀)
議員ヨリ提出セラタル議案左ノ如シ
衆議院議員選舉法中改正法律案
提出者 根本 正君 立川 雲平君 松田 源治君
松浦 五兵衛君

質屋取締法中改正法律案
提出者 高木 益太郎君 淺野 陽吉君 堀谷 左治郎君
○議長(長谷場純孝君) 今日ハ是ニテ散會ヲ致シマス、次回ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス

午後四時四十八分散會

二六